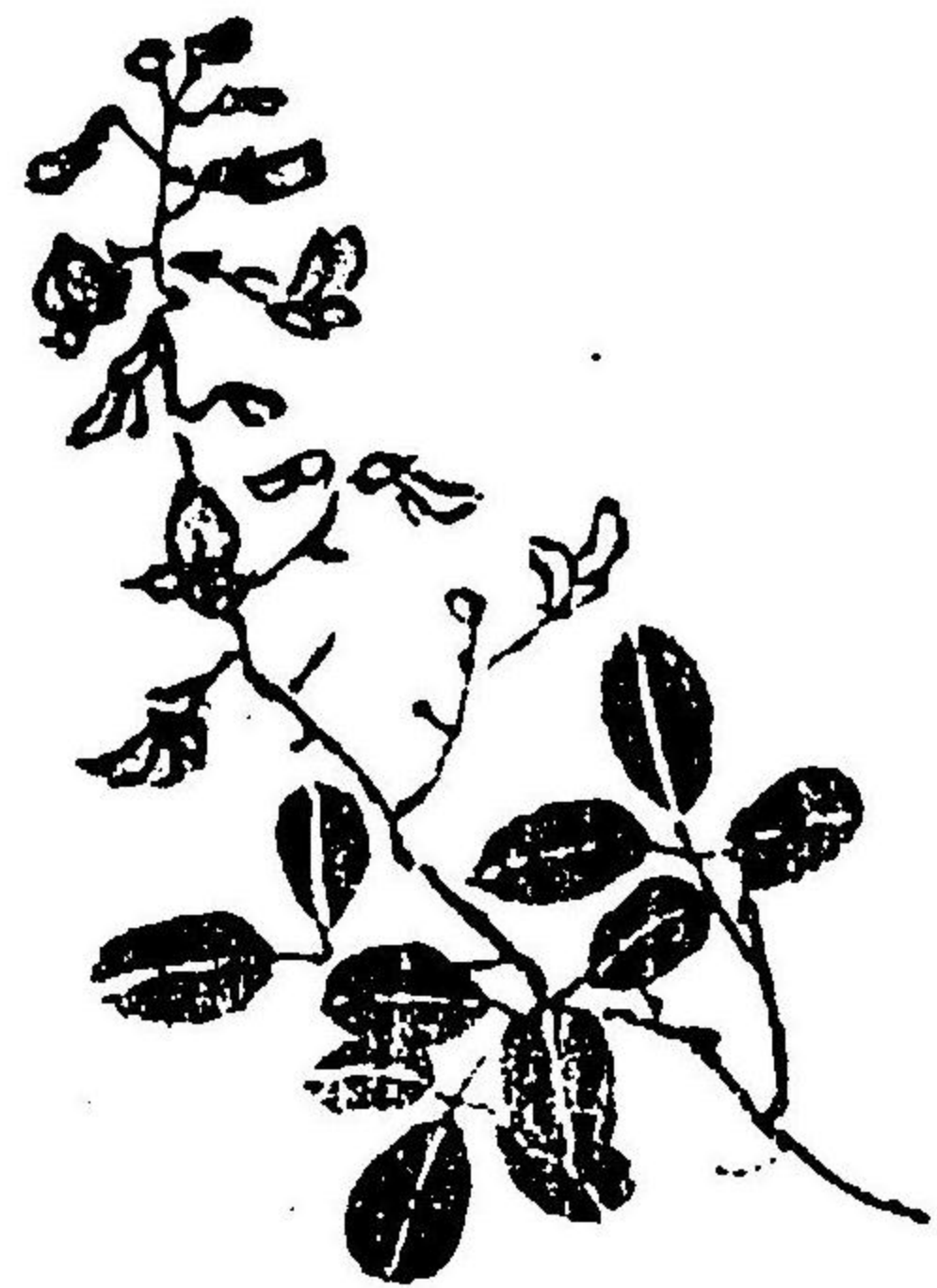


67
172

Vertical title or text block, possibly containing the name of the work or author.



人江菽名所圖画肆之卷

目錄秋之部上

金谷天滿宮

同圖

同祭禮之圖

長藏寺

三江晴嵐

一本松荒神社

蓮正寺

橋本大橋

濡佛之圖

今宮八幡宮

德隣寺

養學院

隆景寺

秀岳院

滿行寺

吉見橋

安養寺

庚申坊

慶安橋

水車之圖

田中荒神社

同圖

金毘羅大權現社

法光院

同圖

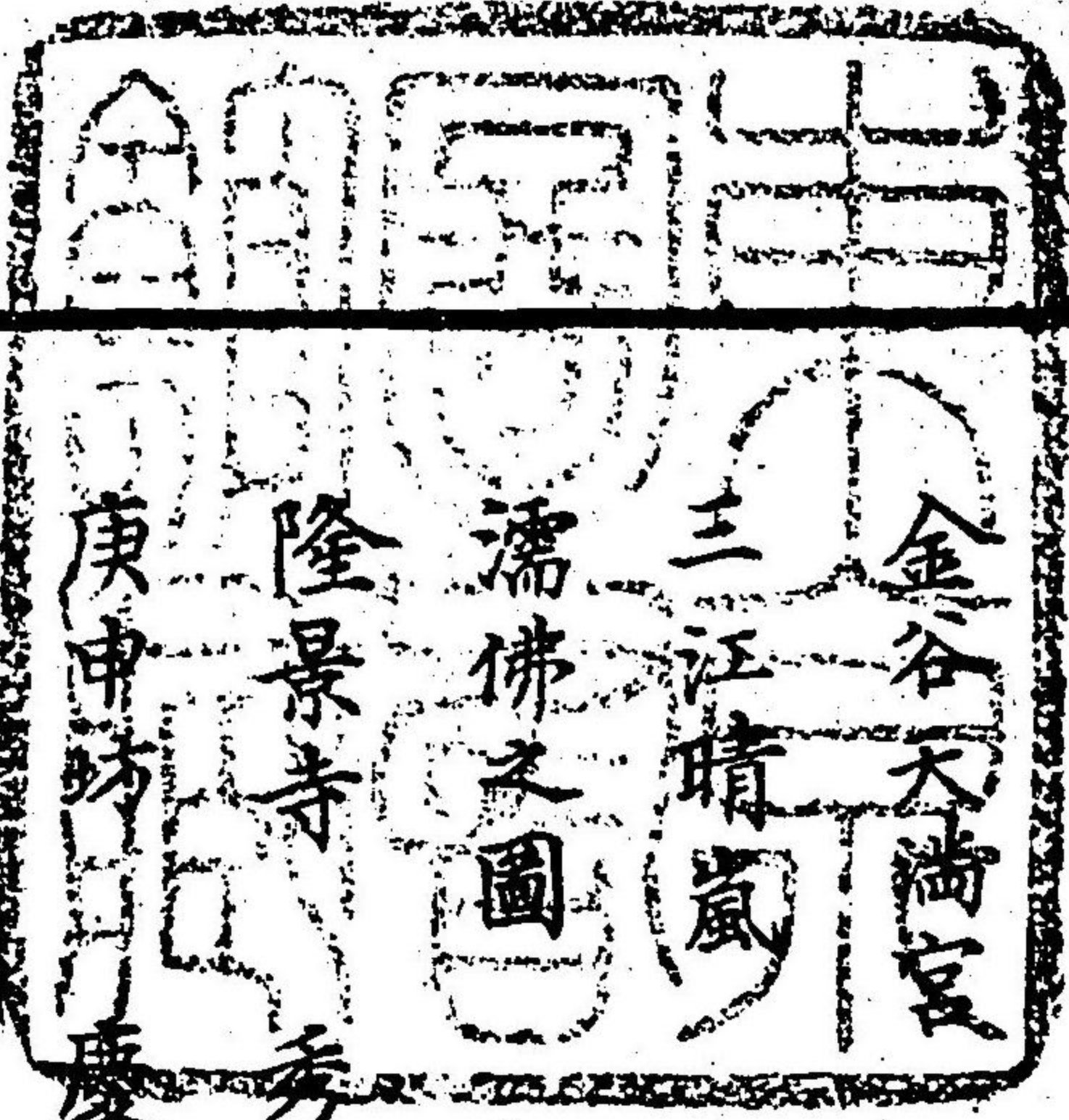
結機屋町

蓮池院

同圖

西光寺

一乘院



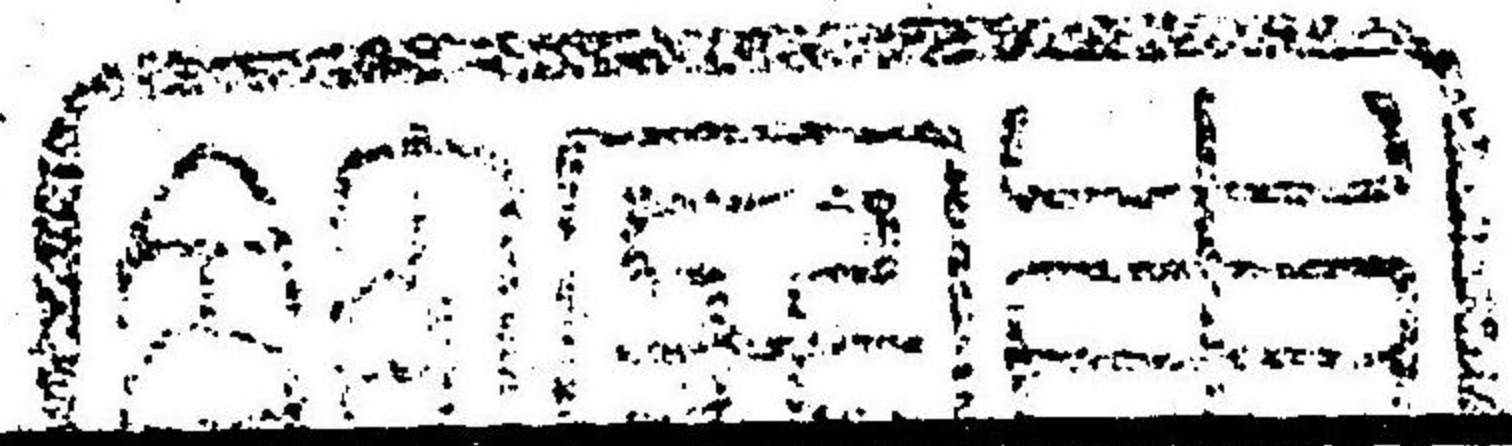
明圓寺 相場所之圖 客屋之圖 清光寺
 同圖 光善寺 光明坊 藤江落雁 三千坊
 瑞玄山報恩寺 端坊 法華寺 花松坊
 埵天神社 長壽寺
 以上四拾五條

八江款名所圖画四之卷

秋之部上

木梨恒充 著述
山縣篤藏 補正

金谷天満宮神 椿町大城戸の所あり舊地ハ當所より少
 後の方より具を古天神といふ 古天神地横山氏某の居宅にて前
園にまつる所の鎮守天神の業祠
を引けるものありと云ふ 社傳曰往昔文治二年の春鎌倉右府
ついで横山天神と云ふ 將軍賴朝卿大日本總管領の時佐々木四郎高綱長門國守
 護職として當所へ下向せしきり人民安全のためとして同
 七月廿五日筑州太宰府より勸請せし所にて一國一社乃
 總鎮守とせし神社なりといふ後改めて長門の國第三の



宮といへりとも中より就き廢類して久かりを享保年
間より公より御勸請ありて本社回廓御修造成てい
よく結構を備へられり初の地 濁り淵別當ハ陽明山正燈院にて
本地佛十一面觀音臨家大照院に屬す當寺ハ始め藝州吉
田に在て知足院といふ夫より山口常榮寺の境内に遷り又
轉して享保年中當社の別當となせり

祭に神管公の御本像ハ泰巖公の御守護神なりと云
祭禮ハ十月十五日より十六日より此日神輿御旅所へ御
幸ありて湯立神樂舞等を執行り供奉のまじりをい

とんは玉鉾を持てるわれハ白幣を捧ぐるあり隨身華
美子の涼傘に花をかき輿に乗れり別當馬に跨り大行
司小行司或ハ平安湖の手廻備とて對管に行列を正し六
尺の奴子ハ脛高くかけて七五三を踏らるすまゝハ先歩
行の往襲ハ声傘回し艸履舞の業其外市中の町より
あついは屋臺山車の色々善盡し美尽し装ひ行さぬはす
う道路も耀くくろりひきまきらるるハ實に太平の美
りて市中も喜しく計りらる形勢なり

有栖川幸仁親王の真筆 同御 奇附

華表
揚額

天満宮

鳥居一基ハ御先手二十五組
よりの寄進して享保十八年ニ

拜殿
揚額

て浦子

法教院宮の真跡

拜殿狐格子の左右の柱に揚額

高樓
揚額

外威楼

同御筆
二五門
の額

二五八寛延年
法林院様より
御寄附あり

表
志
侍
勇
國

文
法
格
子
好

小笠春庵筆

碑一基

福壽を祈るに生類をたすけよと云へり
乃ちろろあんなき道のみ
桑令一葉神鹿ふちうひて
いは池の水に遊びて
むら福壽の祈念の
初を十月十五日

徳松菴鳥法誌

菅廟の碑碣

車藏の左あり
文長九れハ累す

御判物寫

山鏡院と申す
終極所と申す
と申す

新築屋敷

金谷 天満宮 社

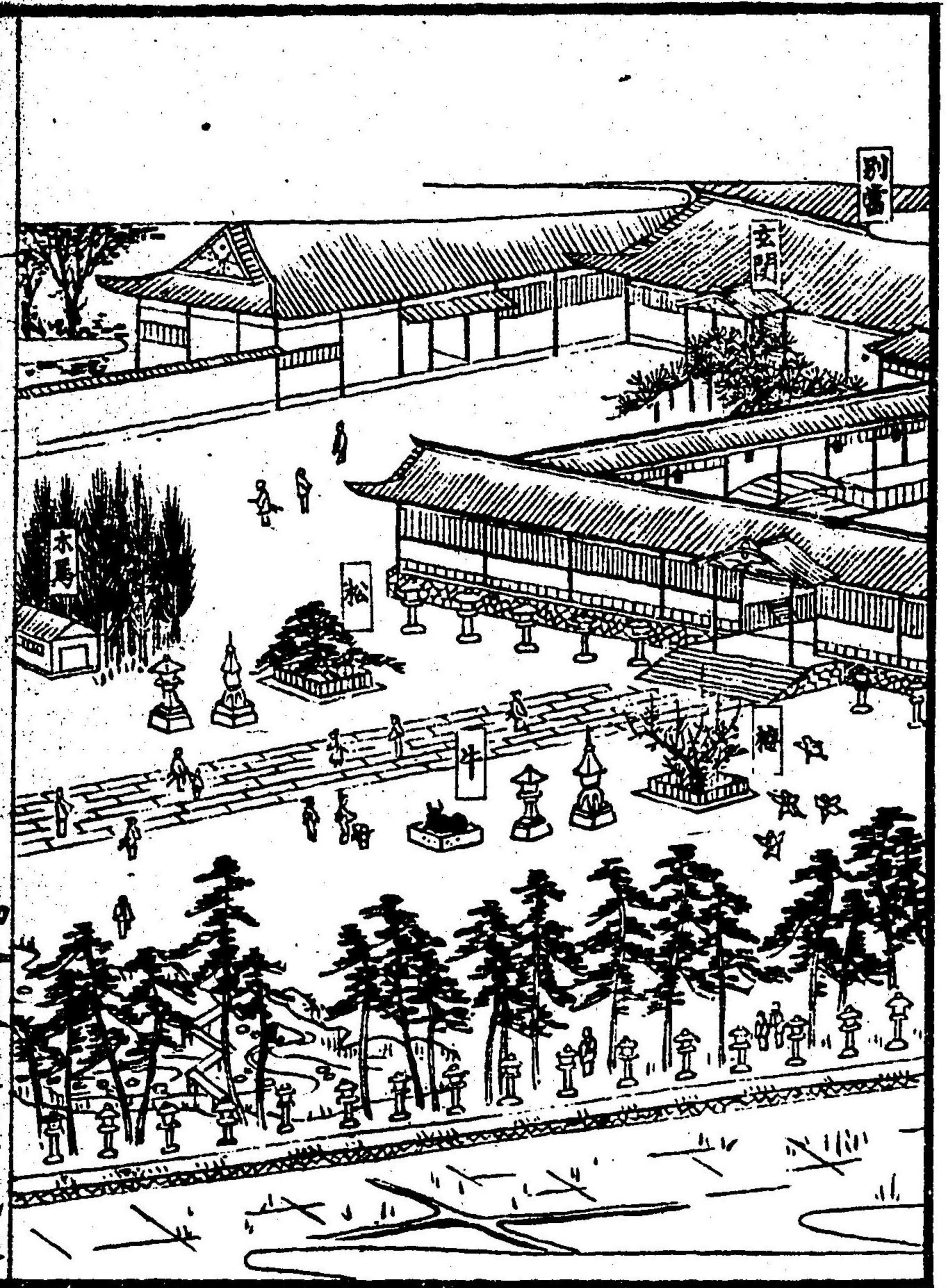


本殿

神庫

四

金谷天満宮



別宮

神明

木馬

神庫

神庫

神庫

神庫

神庫

神庫

神庫

神庫

神庫

神庫

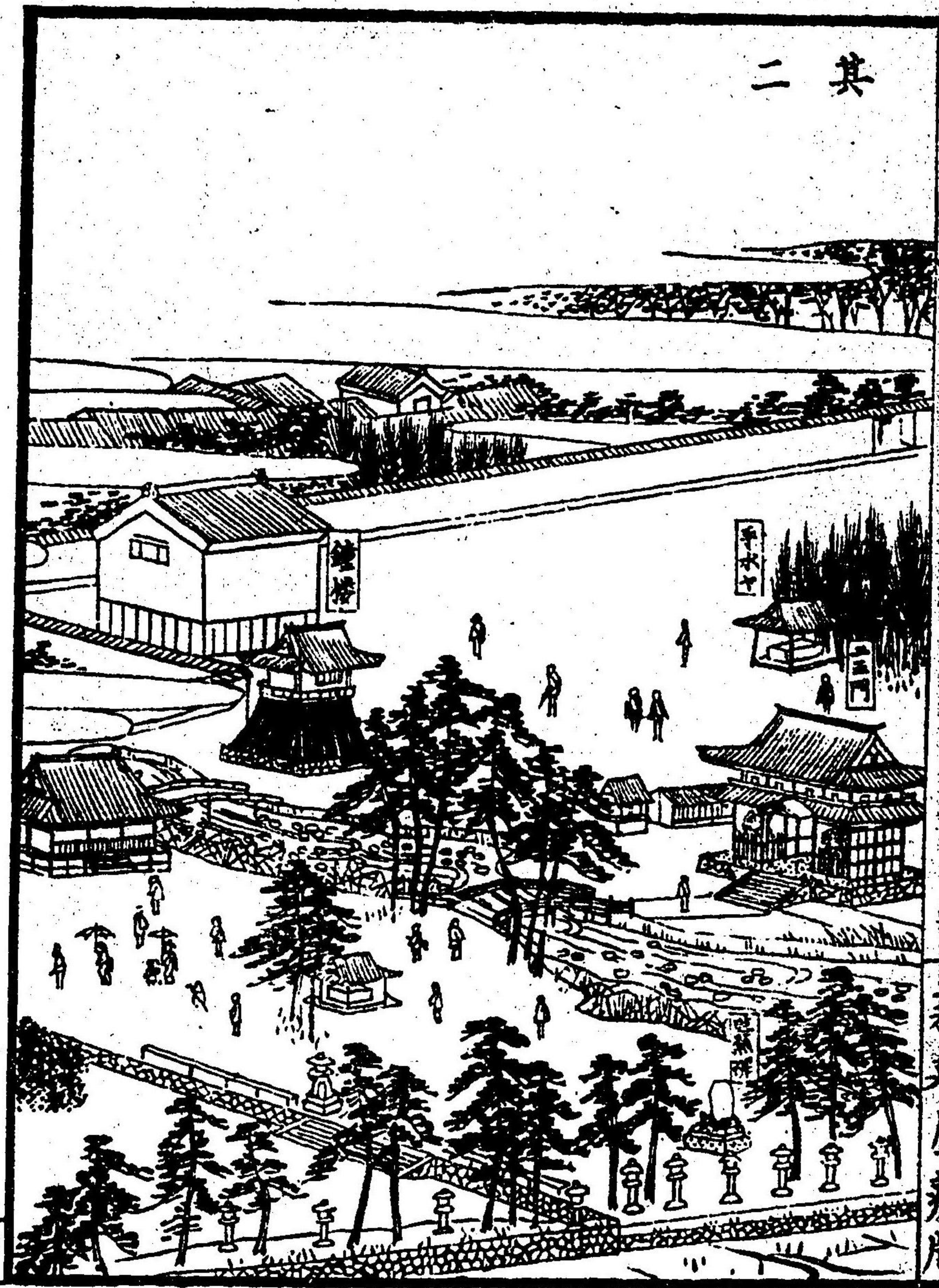
神庫

神庫

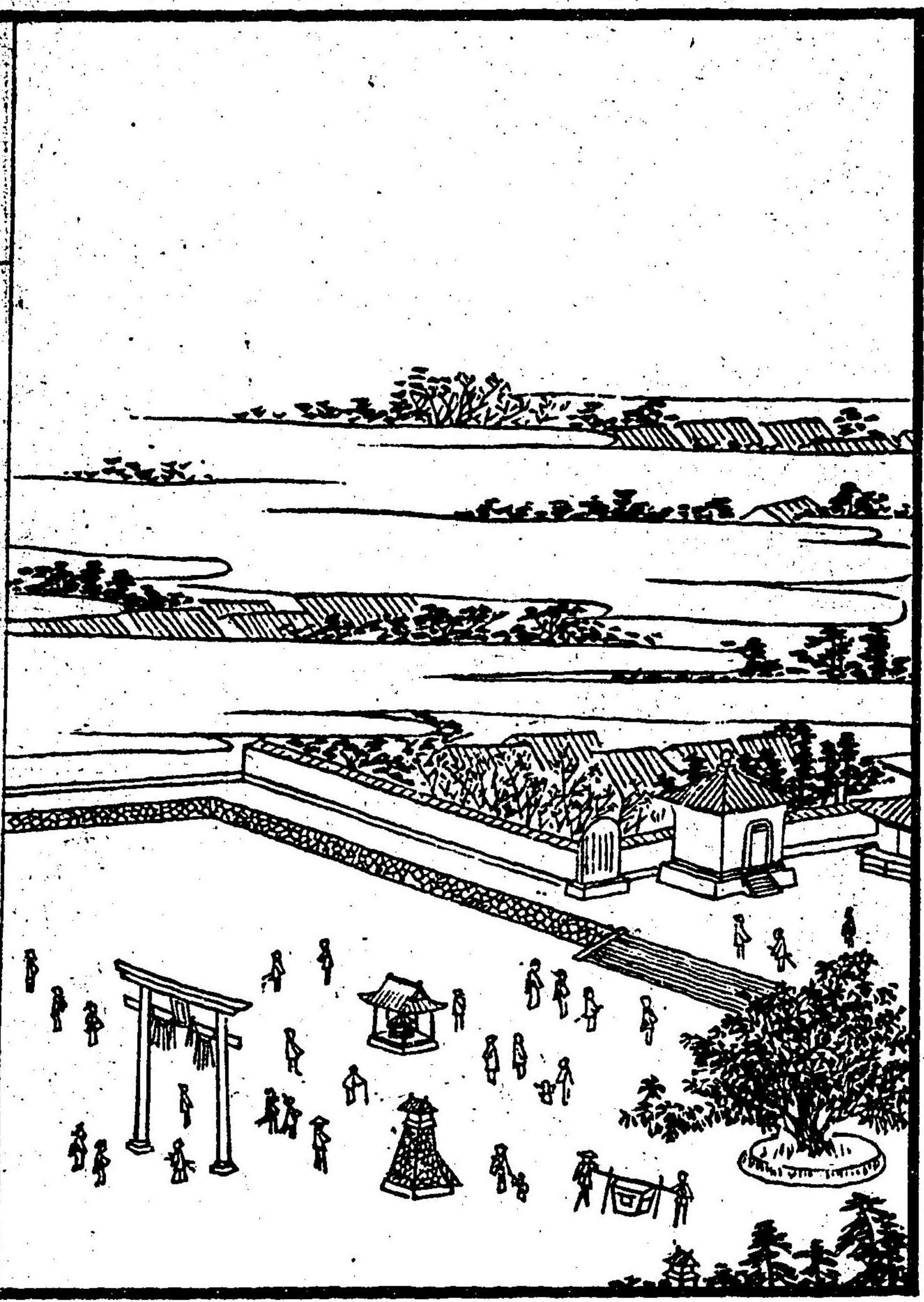
神庫

神庫

其二

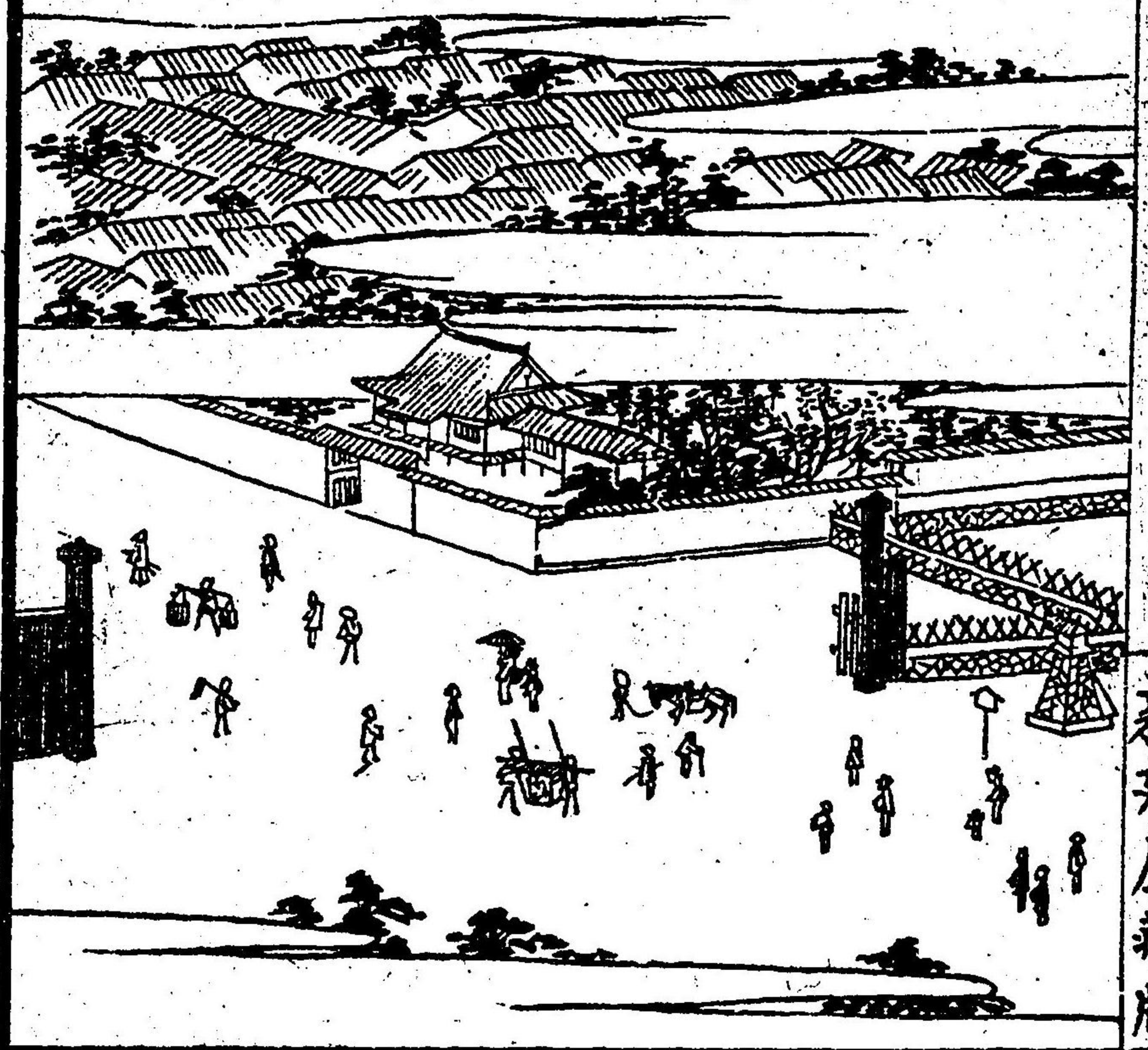


四



五

其三
御城下入口
大城戸の圖



卯月廿六

徳川綱

御城下

入口

長列第三宮丁満吉造
仁先院判并高久伊賀守
讓怖る旨裁利致造る
了る候より候

天正十一
七月廿百

徳川綱

大城戸

太宰府大島居一行の寫

西より東へ
東より西へ
南より北へ
北より南へ
東より西へ
西より東へ
南より北へ
北より南へ

系図院系目録の
大島居

永椿山長藏寺 同所より一丁より南よりあり濟家の禪

四

宗として天樹院に属し當寺開創を正屋慶因和尚と号し

初當寺ハ曹洞宗として二世信明座元慶崔和尚より當宗遷

る本尊聖觀音ハ惠心僧都の作にむうハ濁洲一本松の所

りりを慶長年間うつさきとを 始松雲院の地と代り

觀音堂 本堂の前よりあり本尊聖觀音ハ一尺三寸の黄金佛として大元國曹嶺といりの作に 灌佛蓮臺 門前より六尺余

の坐像に年々の二月十五日といハ灌佛會として蓮臺の前より大尊を焼てはる乃疫災を避んとす此夜参詣入市中近在をいとい群集駭し世俗此佛の為と當寺を濡

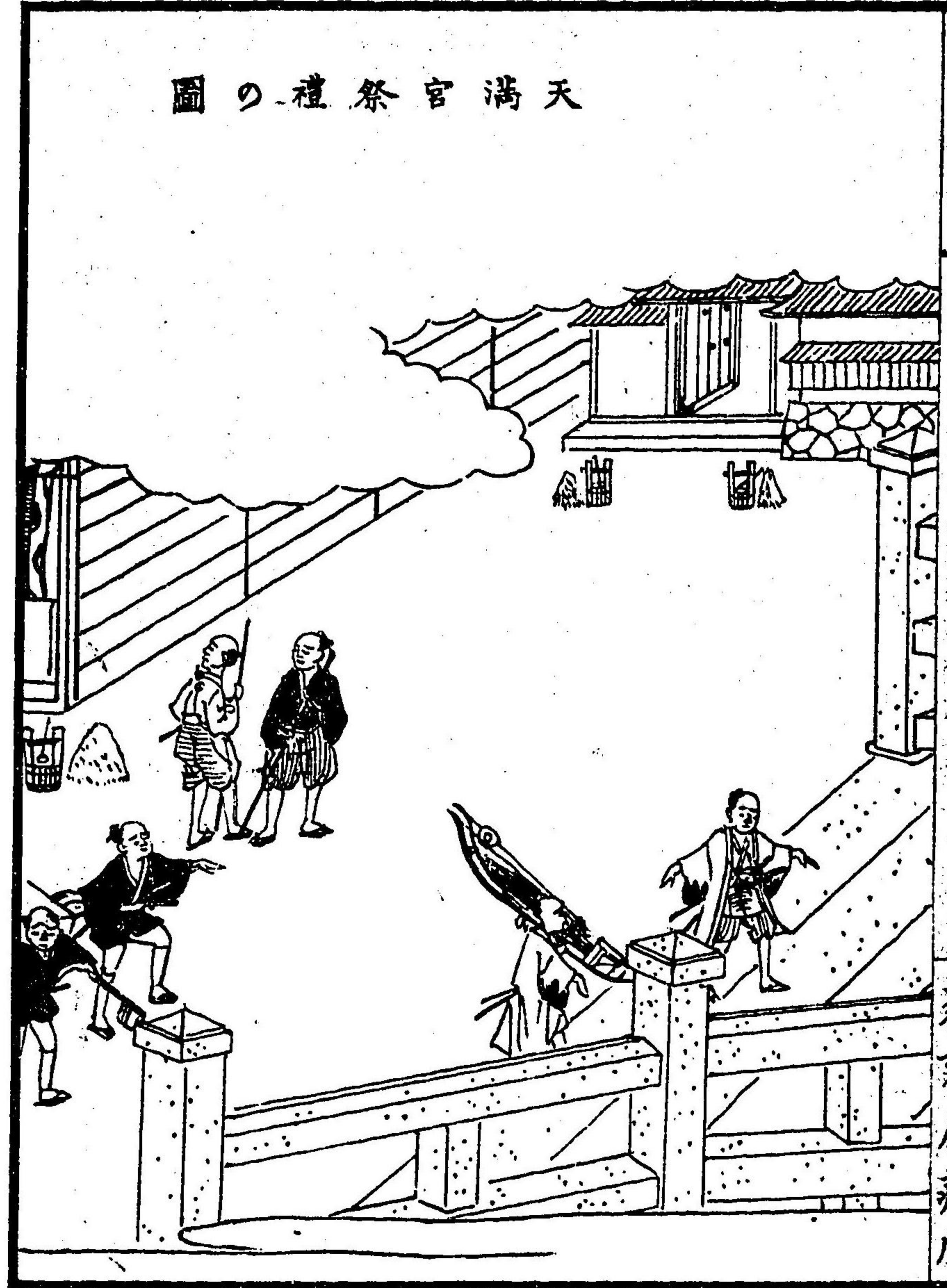
仏とり

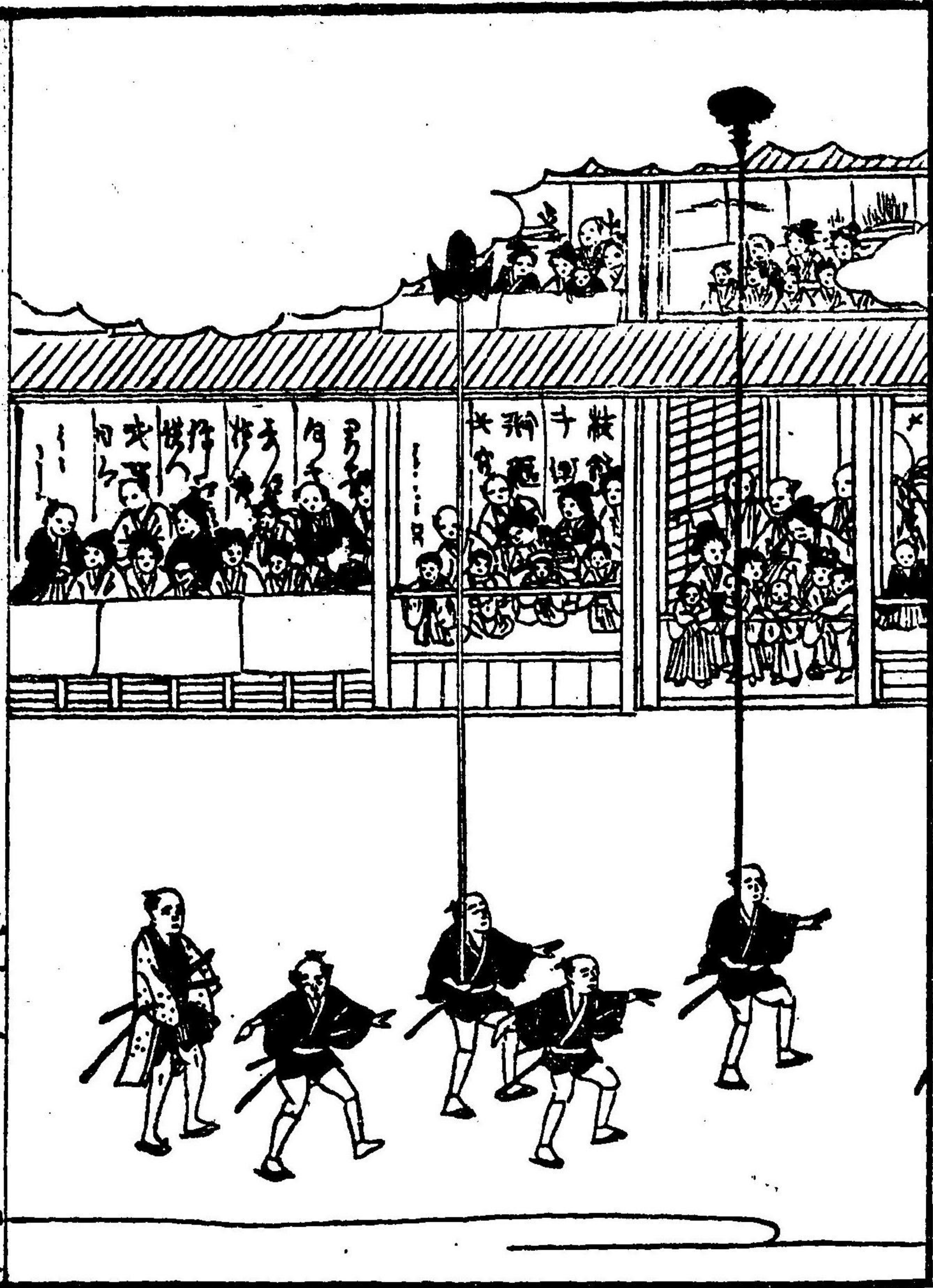
三江晴嵐 いろへハ江をきハ景の一として金谷古天神

宮の所よりといハ傳へり

大島居

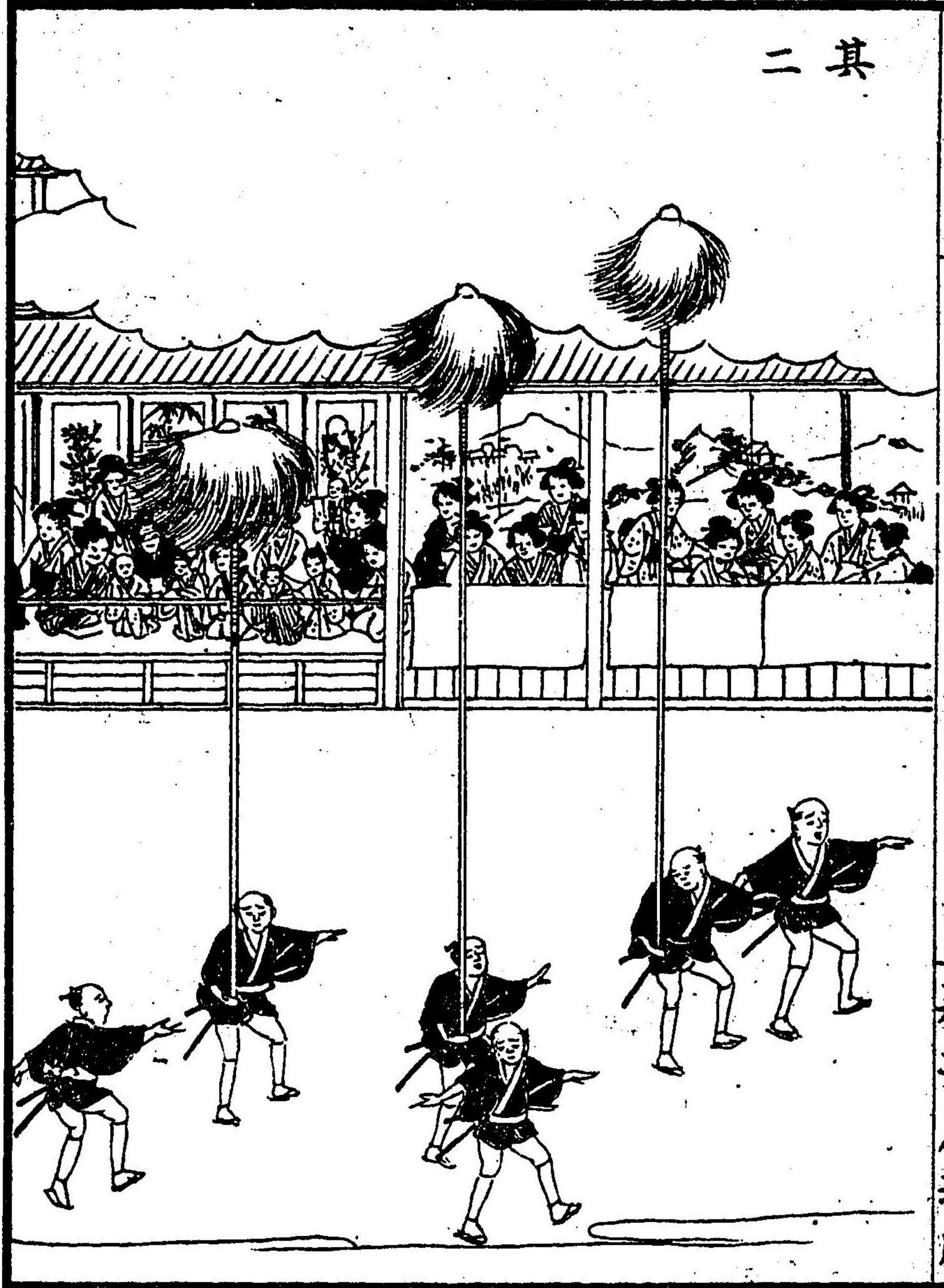
圖の禮祭官滿天



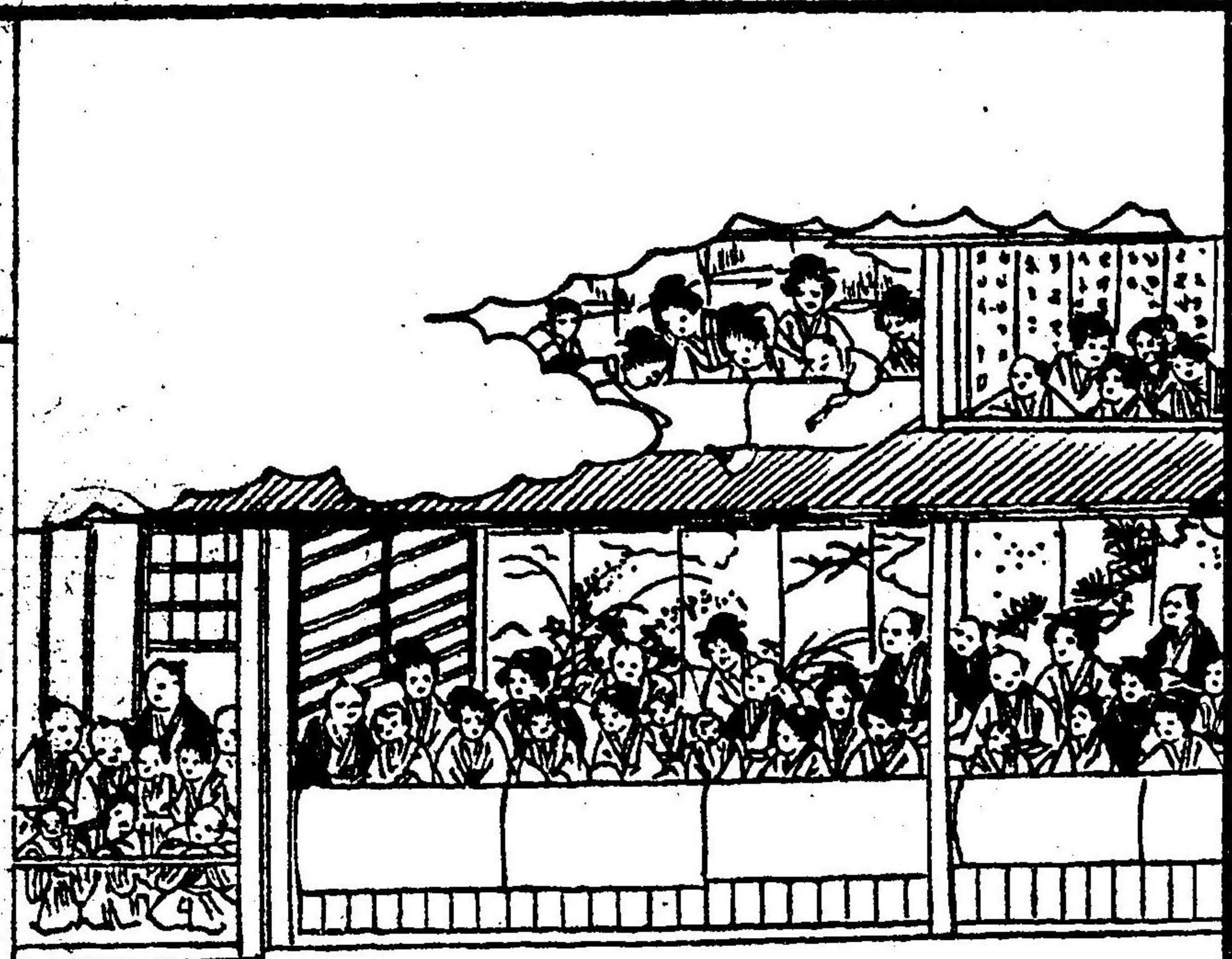


九
天
庭
屋
敷
反

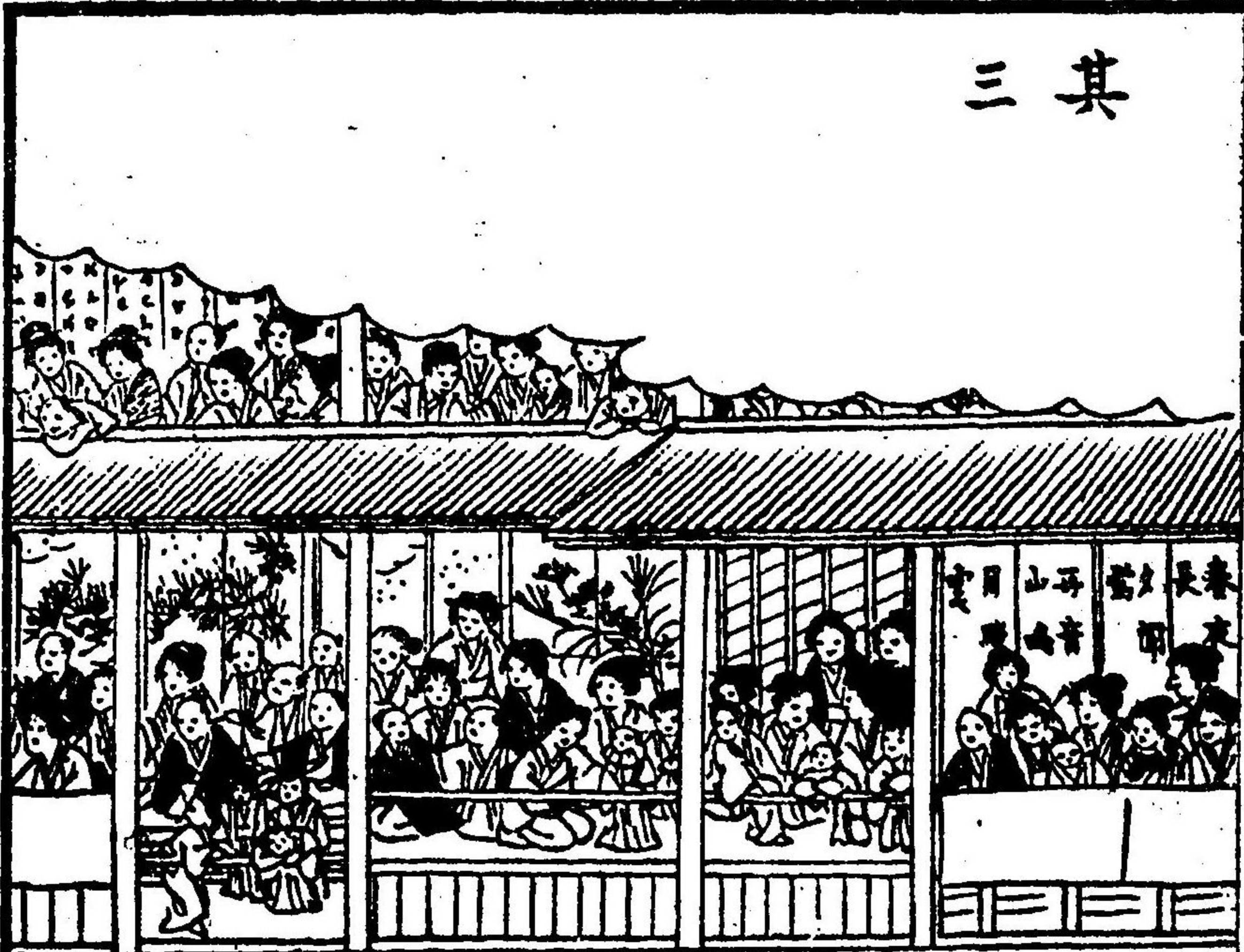
二
其



天
庭
屋
敷
反



其三



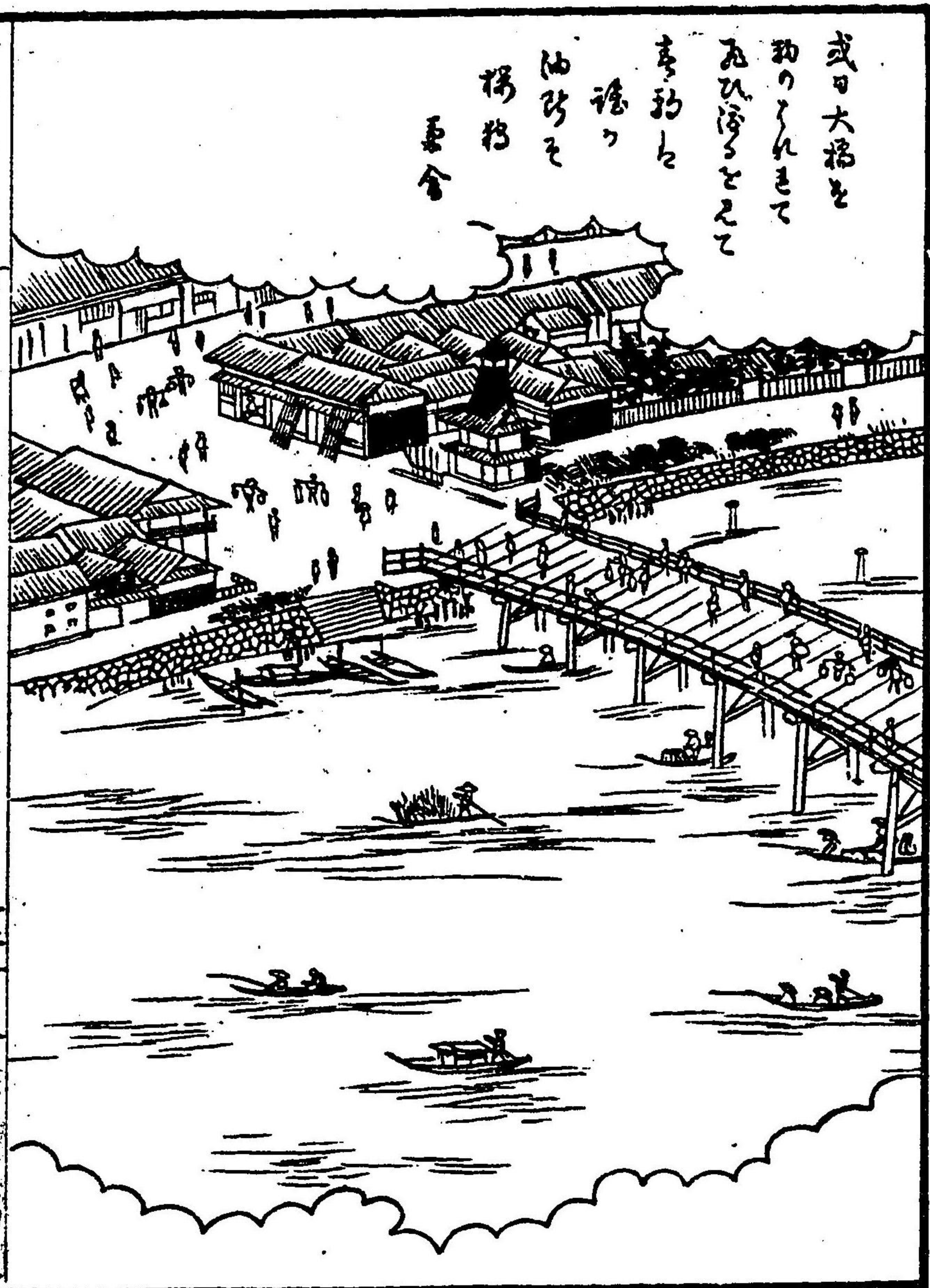
一本松荒神社 濁り淵あり社司佐伯氏奉祀す御神体ハ
木石の二像ありて東帯衣冠の御装束之當社ハ舊より勸
請せしむるといゆれと傳記にひて詳なり終るに拜殿の上ニ
書ししるハ元祿二年再興とあり 古老物語ニ云當所を夫乘村とい
ふ小名ありてハむろー大内尼子
の西氏戦ひし時此一本松と夫
かりていくらも止まりしとそ

龍橋山蓮正寺 椿町中程東側あり一向宗ありて安藝國吉
田郷光明坊ハ屬寸本尊阿彌陀如来を安置に開山覺圓ハ
吉田の産ありて俗井上氏あり壯年の比より薙髪して光明
坊祐信を師と法の道より終る同國井上村より一精

舎を開きて住居せり後慶長の末此地を賜ひて創營すといふ
寺寶 懷紙一枚 梶井成胤二品親王の眞跡

橋本大橋 橋本町と椿町の間ニ架す銘いさゝ考へす 世俗橋
本大橋

又ハ金谷大
橋と云ふ 或ハ青苔橋銷魂橋といふと是も證とまら
りのをさす元和二年始めて架くといふ長四十八間あり
ていろは橋といふ水上ハ奥阿武郡山田村神田の内より出て流敷
を志しに幾邑とちくちくしてて川島太鼓灣ニ落合是よ
て松本川と二つに分れて此川筋ハ橋本より櫻江玉江を経て
終る海入萩第一の大河なり川幅九百間余も有ぬへ



或日大橋を
初めくれば
あひなとこと
きりし
ゆき
橋
屋舎



瀨岸長橋起南通金谷
村牧童吹笛去樵者負
薪蹲臘酒青茅店春花
碧樹園柱未休戀賞寺
磨報黃昏 南溟

新築屋敷

伊豫八幡宮社 江向の中程あり當社ハ萩五社の一として
大宮司河野氏奉祀す

祭神

應神天皇 三女神
仲哀天皇 神功皇后

相殿

岩尾天神

此岩尾天神といふも倉江濱浪うちきハ鼻標といふも岩あり其の岩
窟より出現まじくも尊像さきゆゑハむろ御城北御開闢のみきり
岩國より御手傳りて大河をち堀きくせられける時重夢より
よりて此尊像を岩窟より得て 則當社に納り奉れりといふ

社傳一曰往昔 洞春公伊豫國新居郡金子邑御合戦の時

此やろし賊徒かれをりんと計りて即て社に火を
放しせむひたれと忽ち焦土とちるといふも更一人の兵卒と
見えさうさうさてはちやまりぬとて其日ハ空しく軍を引せか



ふまじ廿日あまりを経て御出陣ありて此の所を通らせむ
人に彼の社跡とかかりき所より御馬も進むことありて風ハ驟
をうち雨ハ篠をつく計り是ハ奇ト怪ト供奉の人にも
ごもに心を動し君恭惟いひざるは則神の崇ら
む所なりんとて直ニ指麾をうりて出陣のま向く一向
宣せらるハ此ハ此の一戦幸ニ勝利を得るはわたくし我城中の
守護神と奉り尊むべしと御祈誓をそこあられども果
て其軍ニ御勝利を得む即て賽うて社をわたくしの如く
御建營ありて崇敬せむめども猶御城中ニ遷させむ

御思ひのありとくも其比戦軍の半されハ御本意お
く過ぎせむいしを大照公御心を継せむして則當所へ御勸請
ありて尊仰倍せしれり比ハ慶長の末つくとをり

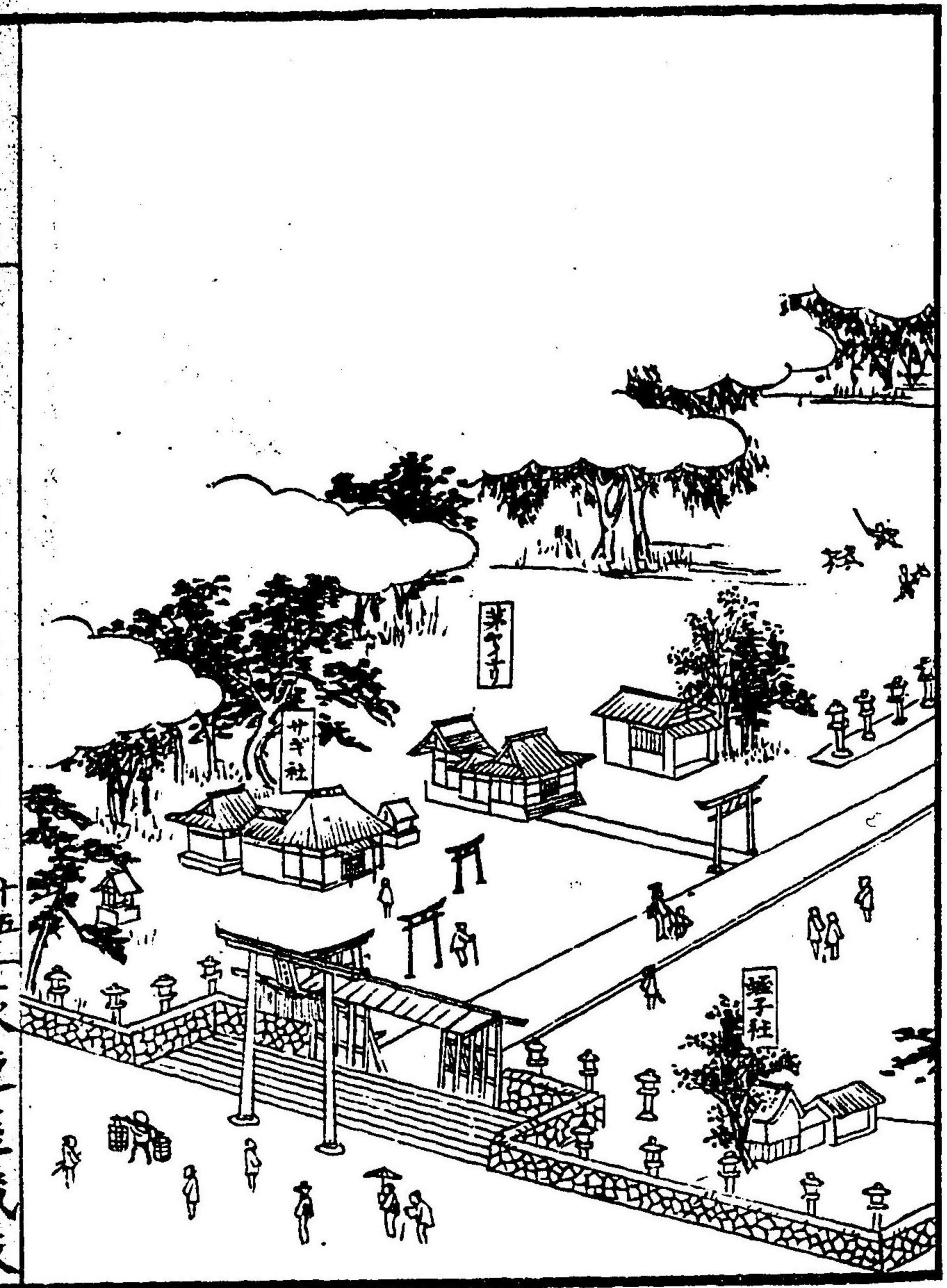
例祭ハ九月十八日より十九日までとす 御名代表幣使

ありて其式殊ニ嚴格ニ執行せしむ

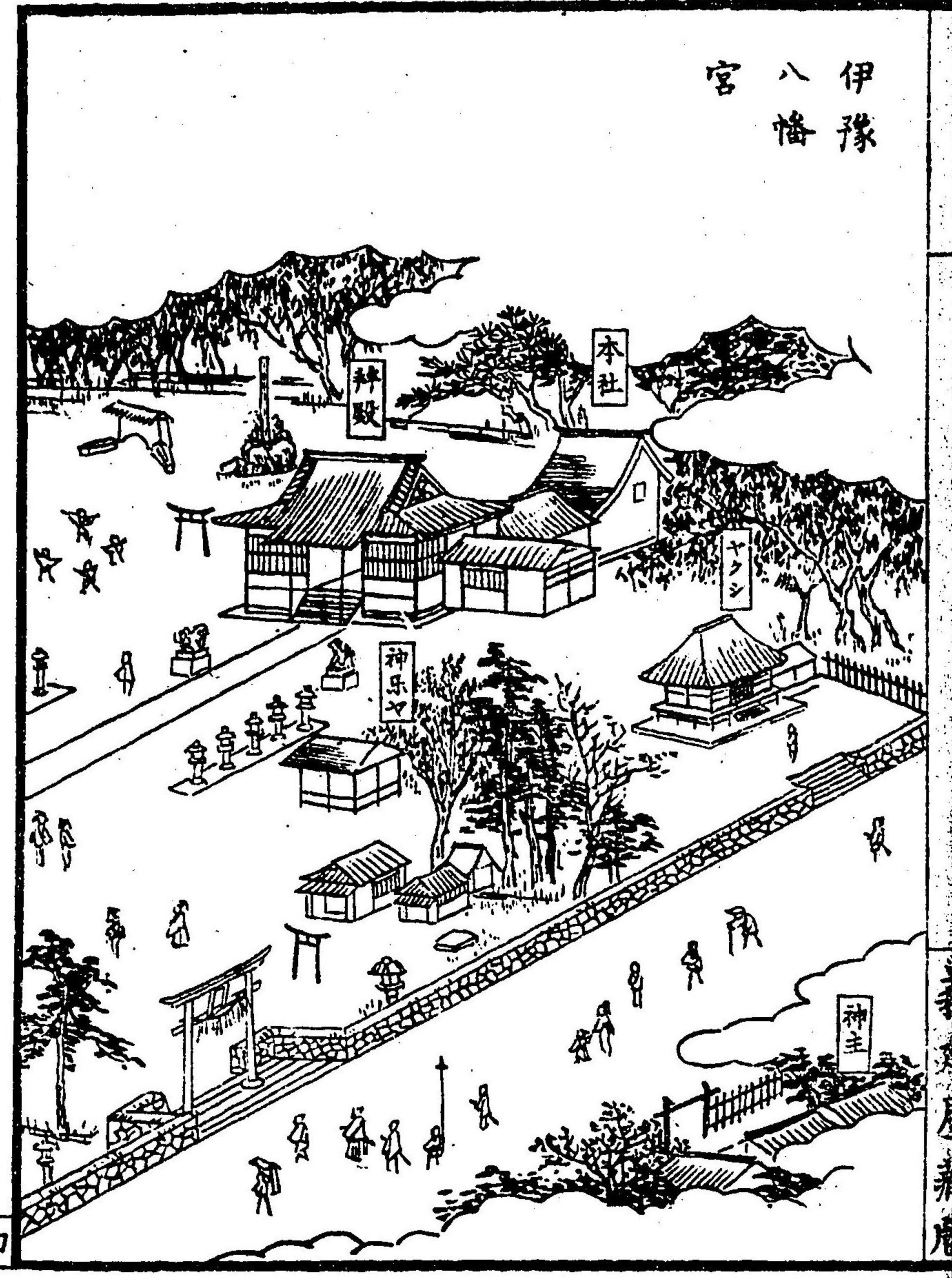
蛭子社

東門の左ニあり元禄十五年の勸請して和智知貞と云ふ人の
守護神なり惠比須の木像にとりて古老ものなりと云む

大官司河野氏門を叩きて肥前ハ内のおまらりと音あふりあり主
早くもきけけて在宿ありとく通らせむとて奏者をも書院へ請到
ち即て主出對ふ客ひりもとせむハあやとすうらうらも引立
鳥帽子ニ衾衣を着し三尺余の蛭子の木像床の上ニ安坐し是ハ
奇侍の靈像なりとてここに兼祠
せりこれと崇信せむとす



伊豫八幡宮



伊豫八幡宮

鷲大明神社

本社の左にあり若國家より勅請す。所の始豫州あり元和五年先私法寺の地に移す後寛永七年當境内へ勅請す

龜宮

大祿年間小畑うららの源父すけちかよりすて細のうらち大きやうらちを獲とりりよき得ゆりのことと中なかにかては是を齋いふことに忽ち病發はすことなり類勅は是ハ龜の崇りとすと

藥師堂

本社の右にあり文明年中大内義隆の建立して當所の地主ニ大内家判物添書等今河野氏ニ存す當藥師尊像併も之ハ忍らくハ神ちろん此堂の傍ニ春日社ありといへり依て古春日の名あり

茅屋縮荷

鷲社ニとるれり小倉氏の鎮守神なり世俗をくらいるりとりのも此故ニや

福源山徳隣寺

同所西ニ對シ臨家の禪利して京師東福寺末今天樹院ニ屬すたりめ藝州高田郡福原村ニありて楞嚴寺とつつ其後承應年間當所ニ遷シ建立シて福原

家の菩提所とす

始ハ丁川島ニ寺地を賜ふ後當地ニ轉す

福原廣俊の法名徳隣

の二字を以て寺号とし旧地の邑号をとりて山号とし志すこと

兩峯山養學院

胎金寺と号す米屋町下らをとりて江向ニいこ

らんとす所あり天台修驗の兼學してみやニ聖護院に

屬す本尊ニ胎藏界大日如來を安して開山を長賢上人とし小

相傳ふ當寺ハ始藝陽ニ在て洞春公熊野成願寺の住職

長賢上人を召されて御建立ちりたる所ニ慶長年間當地

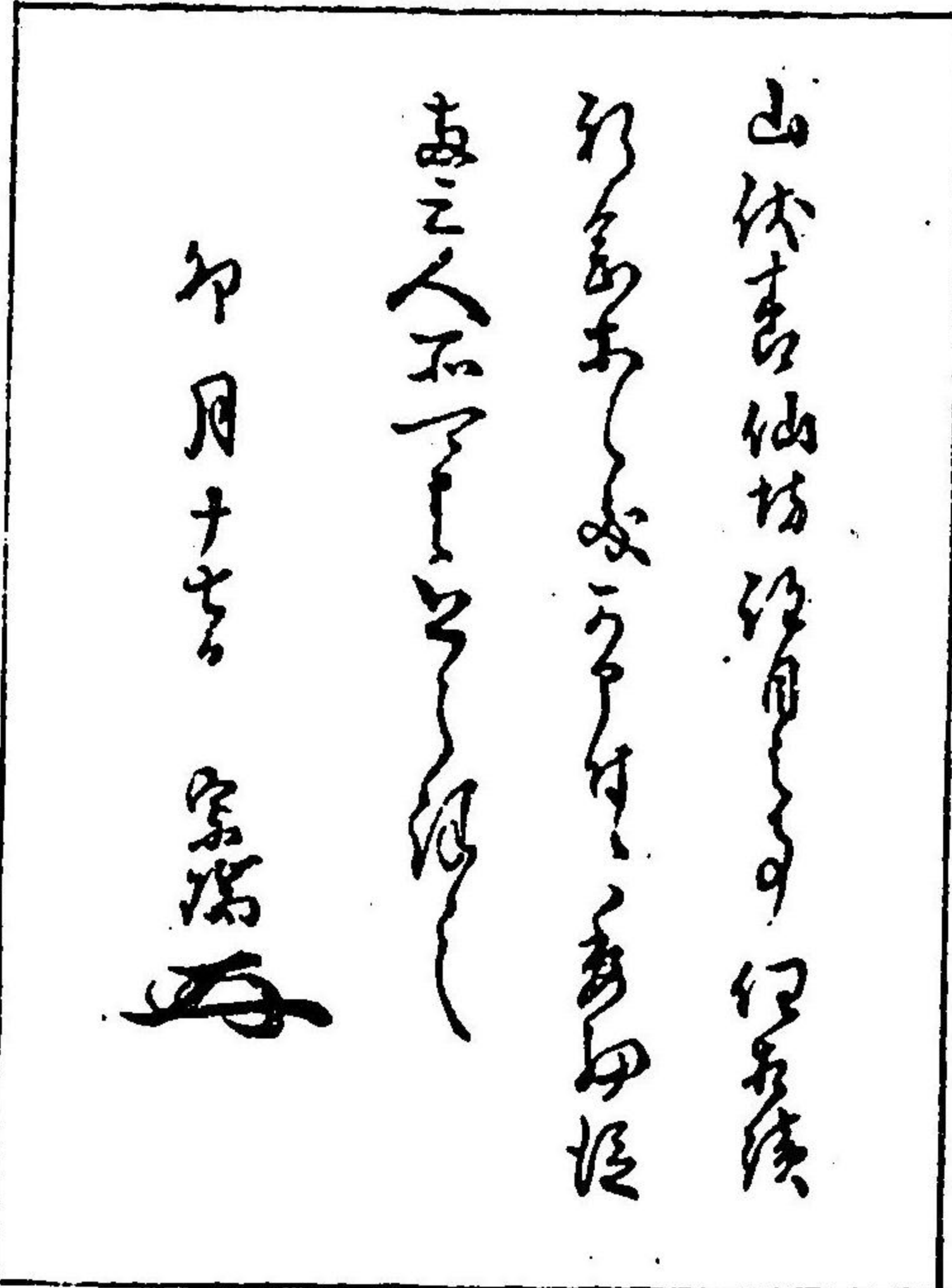
を賜ひて再建す

慶長十七年までハ養學との書記して院とも坊とも其後養學院養學坊とかけり又坊内ニ養學

院といふありて院坊の争論あり云つ

愛宕権現堂

上面よりあり本尊ハ甲冑を着し、木像ニ方のこより、
をとり左に幡を持て白馬に乗し、右に長四寸白馬三尺
の左右に後鬼前鬼韋駄天王前に行者尊等、つれも金溜の極彩色にて
厨子の中巖
上より安置す



黄梅山隆景寺 河添の本町より櫻江涉口より臨濟派の禪

窟より天樹院に属す本尊釋迦如來脇士文珠普賢ハ并に
佛王大宮の作る所にて開山ハ前真如西岩周和大和尚と
て始備後州三原に在り素米山巨真寺といひ元来小早川家
累代の菩提所ニ隆景公の御靈牌を安せしより以降則御名
を以て寺号と慶長年間當所より遷り又寛永年中御再
創ありたり

隆景公御画像 一幅 筆者詳し

土居山秀岳院 江向より平安湖よりととも田畑より

古義の真言宗として満願寺に属す本尊に馬頭観世音を安

して此尊像ハ仁工塔慶の作りて 脇士に不動毘沙門をたく開山

ハ覺玄法印と云ふ始備前國に在るときハ三吉寺と云ひま

表白山元満寺と云ふつと云ふ永正年間吉田郡山に遷して興元公

の御菩提所と云ふりめむハ後慶長年中當所之地を賜ひ即て

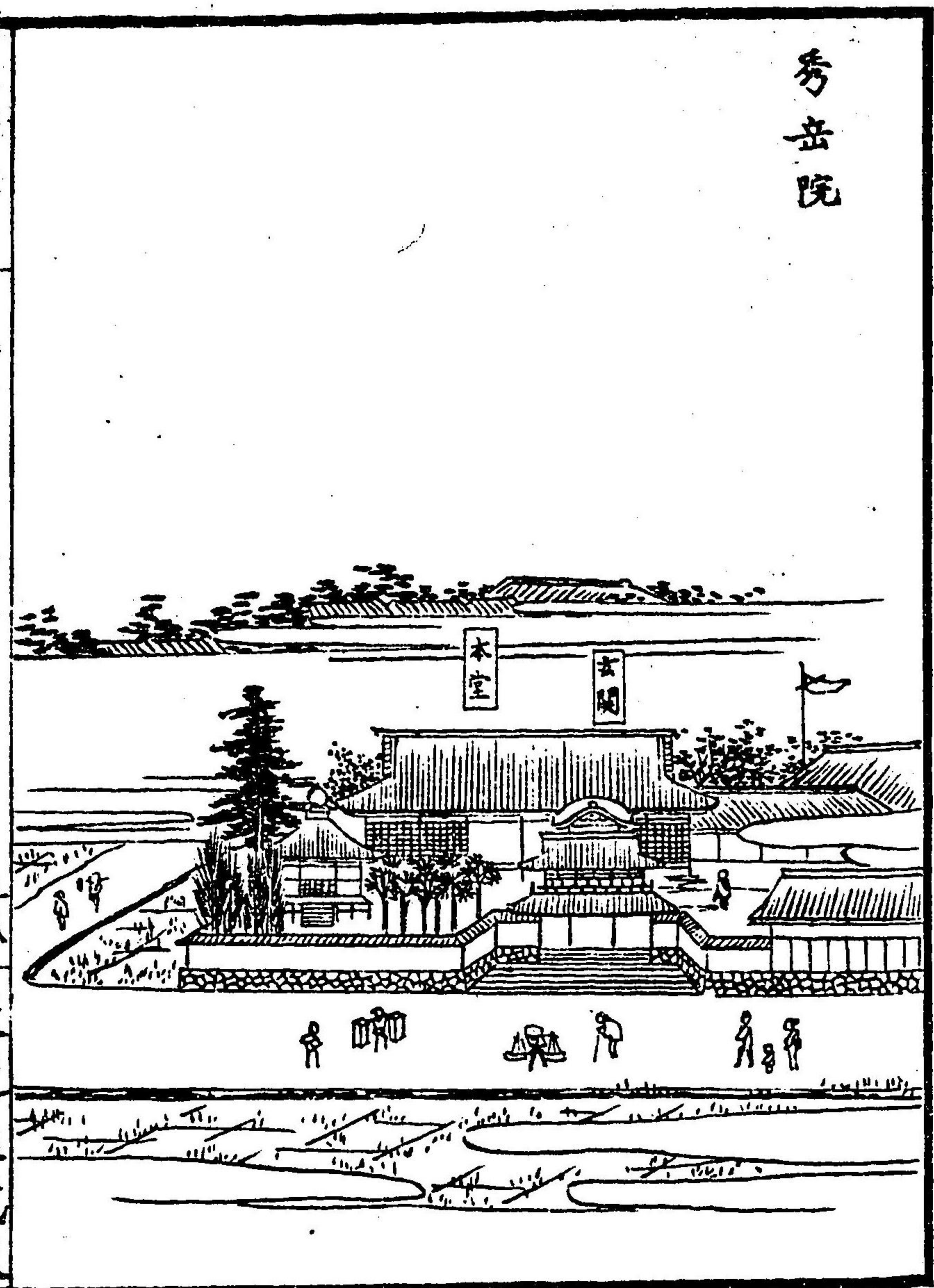
御法号を以て寺の号として天台宗を真言に轉せりと云

寺寶 開山法印覺玄吉田郡山に召されて興元公より一首の所哥を賜

藥師堂 として別燈舟を藏す此外而紅うきの打布銀襦の柱表音あり

淨殿山満行寺 同所後として則満行寺筋と稱し一向宗として光

秀岳院



明坊に属す本尊に阿彌陀を安置す開山祐傳ハ俗称坪井
 玄蕃といへり中古天正の頃内府信長公の幕下より一ノ故
 ありて御富家ニ属し教度の合戦ニ勲功を著しける豪傑
 あり後終ニ鬚髮を薙て吉田の庄上殿山と云處に一字を嘗
 みて春秋をかゝるる慶長中當所ニ来りて再建する所あり
 寺寶 法華經隨華功德品 一軸 昔の真筆ニ
 とひひけり
 吉見橋 平安古馬場町久芳氏の角より中渡りし出る蓮池
 の石をいへり其古吉見廣行住居せし舊地にて圍池に
 架せし名残ありといひ傳ふ 元和の比御打果
 して実断絶す

高輝山安養寺 同所より一丁を隔り西にあり浄土宗にして長
 壽寺に属す本尊阿彌陀如来ハ佛工春日の作り所にして開山
 立空接道和尚といふ和尚接道ハ筑州博多の産に慶長九
 年當所よりきりて一字を建立に初め天長山安養寺といひ
 とそ五世廓道和尚より今の山号に改む又當寺ハ遊行上人
 回國遊化のときり火除の寺と定められしといひ
 庚申坊 同所本町一丁目中程東の側にあり當寺ハ四宗 法相
 三論
天台 兼學の道場にして浪速の荒陵山四天王寺教田院に
真言 属す開山ハ及深法印にして近比天台宗を専らんとす本尊を

青面金剛の木像よりして弘法大師の作と云ふ傳記詳しき
に永祿年中の草創と云ふ

慶安橋 田中社裏門より新堀より川の川に架す慶安年

間此橋をかちられし依て此号ありと云然れあれと慶安年

中よりいし新堀川出さず恐らくいし溝ありてそれ

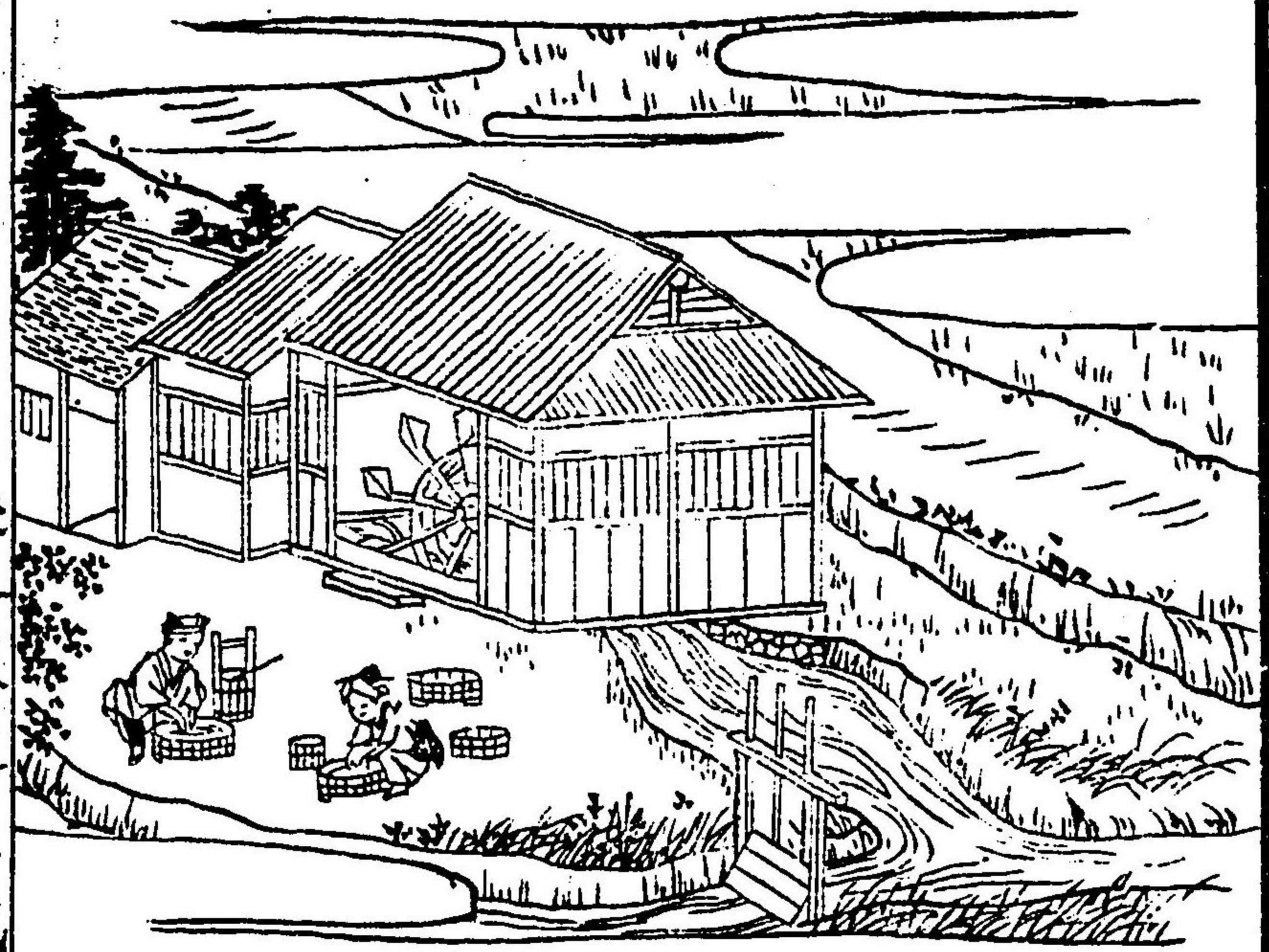
架しより小橋を慶安橋といひしを後新堀川出来て新か

けられし橋も旧よりて名を負せしなり慶安五年法画圖を
近

頃道の傍に水車を設くよりて世に水車筋と云ふ稱す或人云
鳥田圭

巻よりハ湯浅圭巻と云ふ人日毎に此道を通ひて所城に
かよりて人皆ケイアン僂と云ふと云ふなり

水車の圖



田中荒神社 同所より東方一丁をこにあり世俗田中社といふ
 又一本松荒神社といふといふより一へ當所より大松一本ありて枝
 葉繁茂せしより終り地名ともさうりたり
或云當所の森市中の中央
 として一株の大松を栽し
 社司吉屋氏例祭ハ九月廿七日より廿八日までとす相傳ふ當社と
 いふへ江向地面の北よりありて享徳寺の鎮守神より一級五穀豊
 饒守護神として當所へ遷坐す奉り即拜殿本殿とも公
 たり修營せられり初吉屋氏の春日社の大宮司として今伊豫社
 の神職にあらるに小南氏の春日の神職を譲りたりかたりと
 して當社を賜りたりとて春日社の古証文を存す傳記廢

きて詳きまれば是より前のまは知れり 始ハ社坊に有 由

舊記

夫田中一本松荒神者蓋自往古此地に鎮坐五穀豊饒之神
 徳盛に而福祿掌壽命神也故奉称三寶大荒神子家之神道
 口訣大則普於天地小則於人間毛髮之數悉是荒神之明德也
 外焉吉凶禍福内焉喜怒哀樂皆并無所不靡者荒神之威徳
 也崇敬正則荒神正怠慢則荒神怒神慮之所使然也且境内
 在稻荷之神社此神福五穀之精神也振古於諸願此神未嘗
 不感應以是祭事莫怠慢云々惟時慶安三年庚寅八月三日



一本松
荒神社
世々田中社と云



大般若經一部六百卷

三箱入奥書をいす

為父母往生兼為現當圓滿修治也

建久三年七月日

入道西證

抑此經者從言敷庄奉粟渡當庄春日宮安置

勸進入道康西沙跡

阿武郡年敷庄又久新田庄内春日之宮大般若經田之事

合坪者 善知名く向
寺町にラタ一町

右彼經田者為高除春日宮を為淨寺進上者亦新河之

領主不可有修考也、然者更長地之之御祈禱任
先例不可有相違此件

文明十一年己亥二月五日

三和

矩祐

山田

兼康

春日宮別當

安養寺

稻荷社

本社の右
にあり

金毘羅大権現社

新堀を江戶屋横町にあり

祭神ハ天狗の本像を安養相傳山當社始め田邊氏の鎮守

神を奇瑞多しとて人皆齋きかこみて終に法光院を
かりて仮初に社を造營せり願主片河町々人某の一建立せり
といへり 田辺氏やま内の業祠ハ
法光院の裏門の所とす

瑞現山法光院 古義の真言にて満願寺に属す開山法印源

秀みして本尊十一面觀世音ハ山城國八幡村に住りり

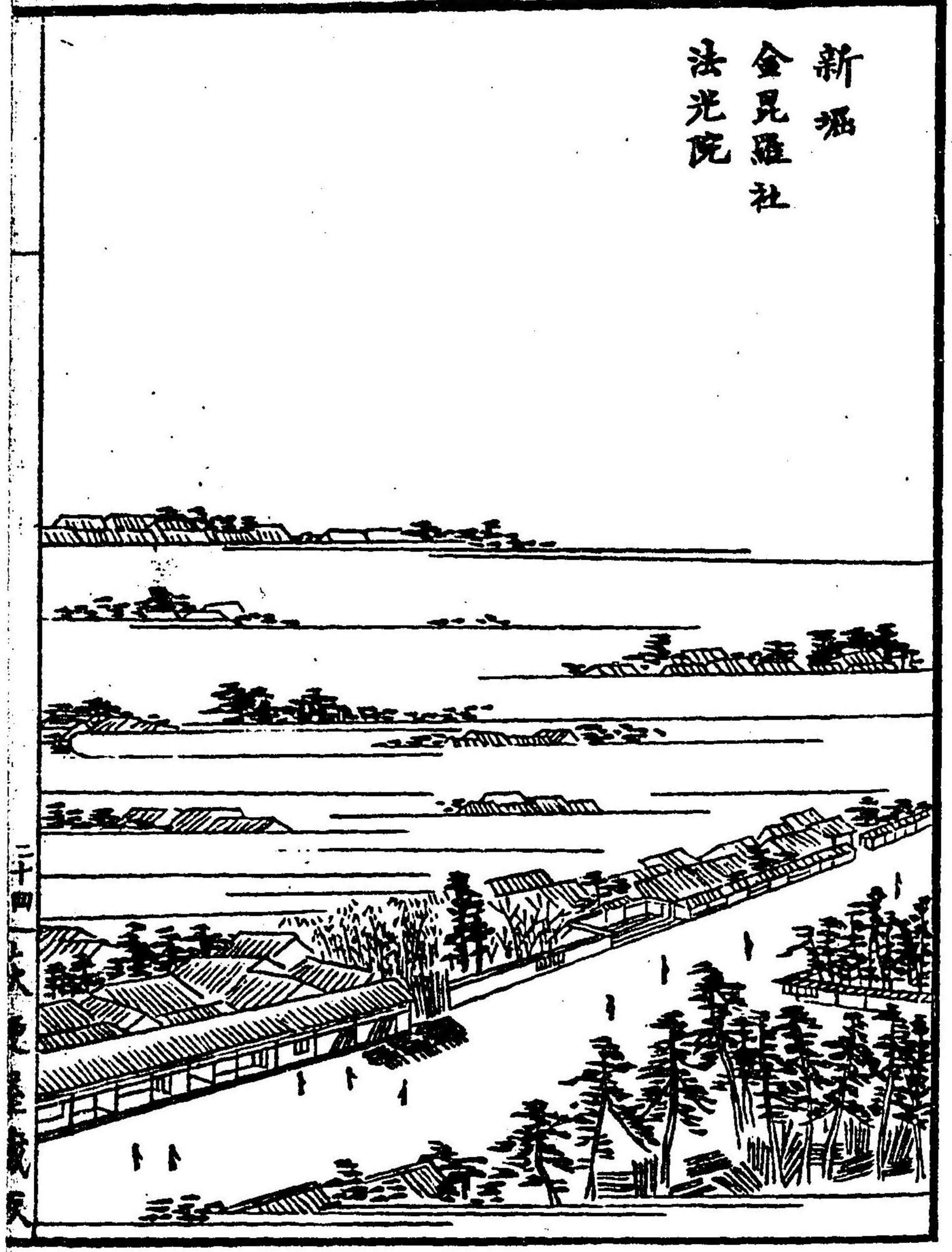
康尚といふ人の作る所なり 康尚ハ美濃の國の産康信といふ人の子
りて八幡大井の示現により仙像を造

り初め一人のゆゑに此人の作りりを
八幡大井の四作と云ふ依まらり 當寺ハ始め山口氷上山の境

内に在て大乗坊といひり慶長年中當所へ遷して今の

号に改む

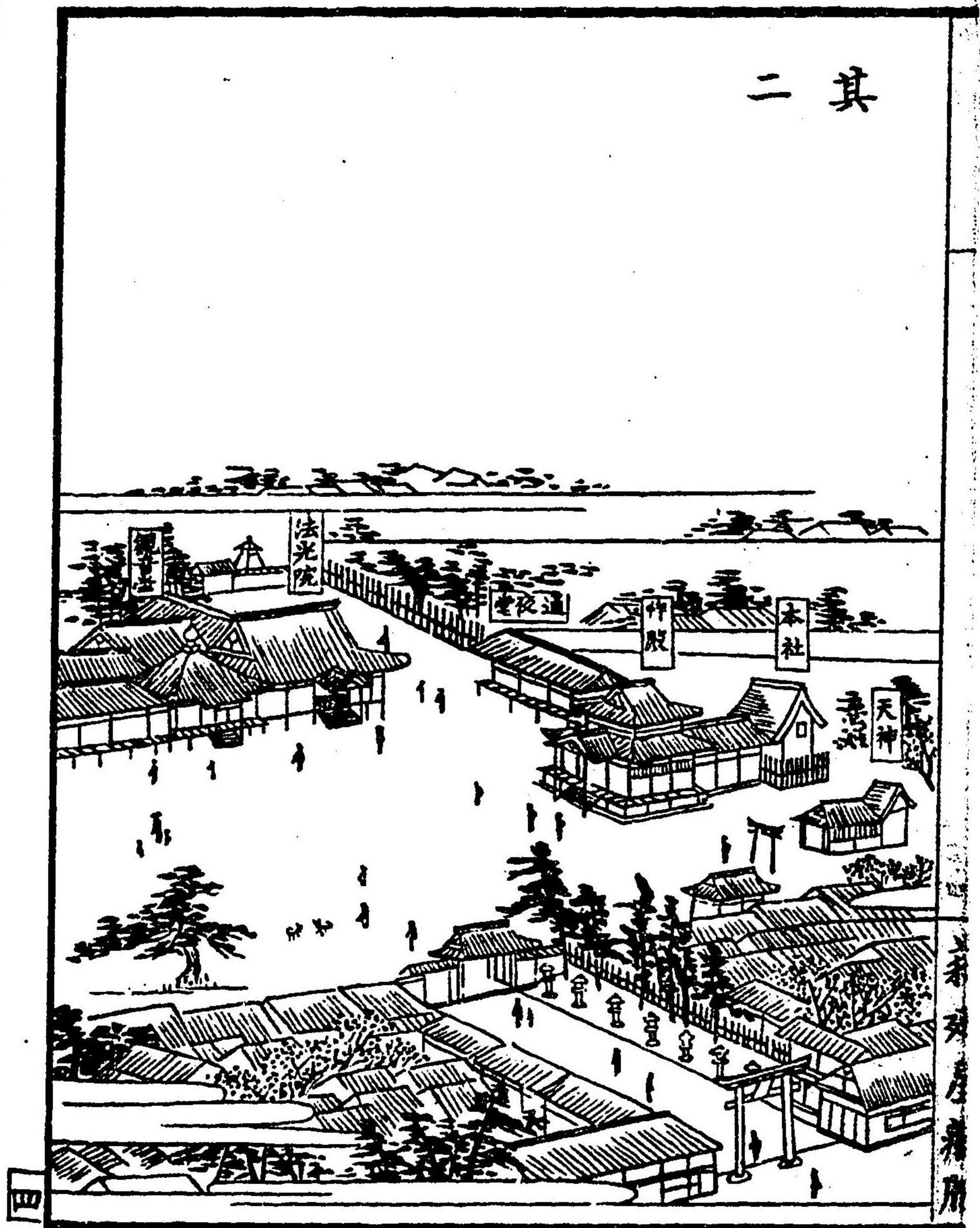
新堀
金毘羅社
法光院





二十五
大
地
景
観

其二



寺
院
景
観

客殿の扁額瑞現山の三字ハ寶鏡寺の宮の真跡なり

華表
の揚
の所



銅金メツキ
法鏡寺宮の御真筆なり
集古十種にも出づるものなり

緞機屋下 ころきの御代ころきん京都より織物師を召

されて御装束あるハ御能衣裳等を織りぬる所にて此
号の残りころころりなり

重砂山蓮池院 新堀田畑小路一乘院の北に隣り京師淨華

院派の淨刹なりて本尊ハ阿弥陀如来を安置す開山ハ吞

四

雪和尚といふ相傳ふ和尚ハ豊後國の産大友氏の家臣護摩津
留大藏之丞といふりのり文武の達者なり 大照公の召に應
じ講讀御茶湯等ハ御伽に屢出たりしそ其後江戸御在府
の砌吞雪在江戸のより改間しめされ即て芝の増上寺に修
學せしめし折に所屋形へも登上せしりよていと御懇に
漸く三年を経て當所よきより一艸舎を營之住居せしり
君たむく艸菴に御成ありて所茶をも奉りり庭前を御
覽しむひ折ら池の蓮りとあてやうなるを賞美させむひ
やうて艸菴を蓮池菴とを仰られしり夫より正保年間當

地を賜ひて則蓮池院と号けり

辨天堂

本堂の右より本寺弁才天女ハ私法大師の作と云ふ縁起と曰
夫弁才天女大黒天摩利支天ハ智仁勇三徳の尊神なり此弁才天
ハ私法大師の作して平相國清盛入道の守護神なり一ク平氏の一門壇
浦入水の時さきも海入て此瀆池を漂へりて吞雷高僧諸國修行々
折の折らかのほさべを通りし真砂の中より弁才天の面のみ見へり
くをとりて懐ててまの萍水浮雲と所定ゆかして津國兵庫法
界寺ニ参詣し仏殿を拜せしに不思議なる事本寺弁才天女殿のこよて
首をハミえず和尚則奇遇を感じ直に寺僧ニ尋ふて壇の浦の由来をとき
此面を合せしるし沙入へくもあはれして并契を合するく如く依て主信
し此像を求めて持来り堂宇を建立して安置せし所なり云々

當寺再建棟簡左より

勅願所 淨華院末寺

長州阿武郡萩庄 本山早三代
重砂山号從津華院 依院宣再住緇林良故拜
院号者大寺大照院殿日讀 明曆第四戌歲仲春日

蓮池院開基尊譽吞雷長老

本堂
の 所 掲
の 額

重砂山

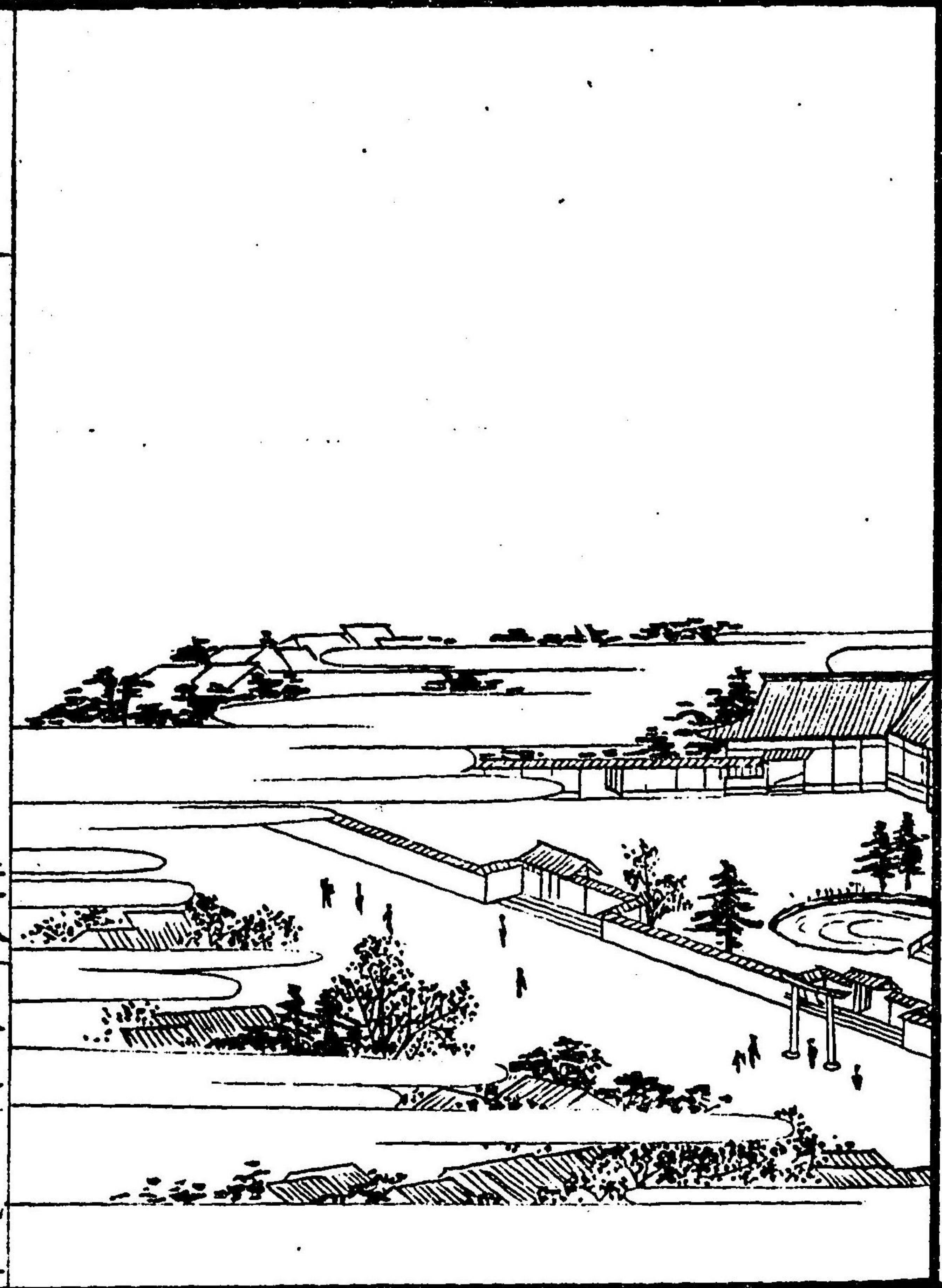
唐土三滝伝筆

山田原欽墓

弁天堂の後よりありのつら石よりて中より復軒山田原欽燕
右ニ元禄六年癸酉七月十四日歿左ニ壽二十八歳
響譽正學原欽居士とありてむ

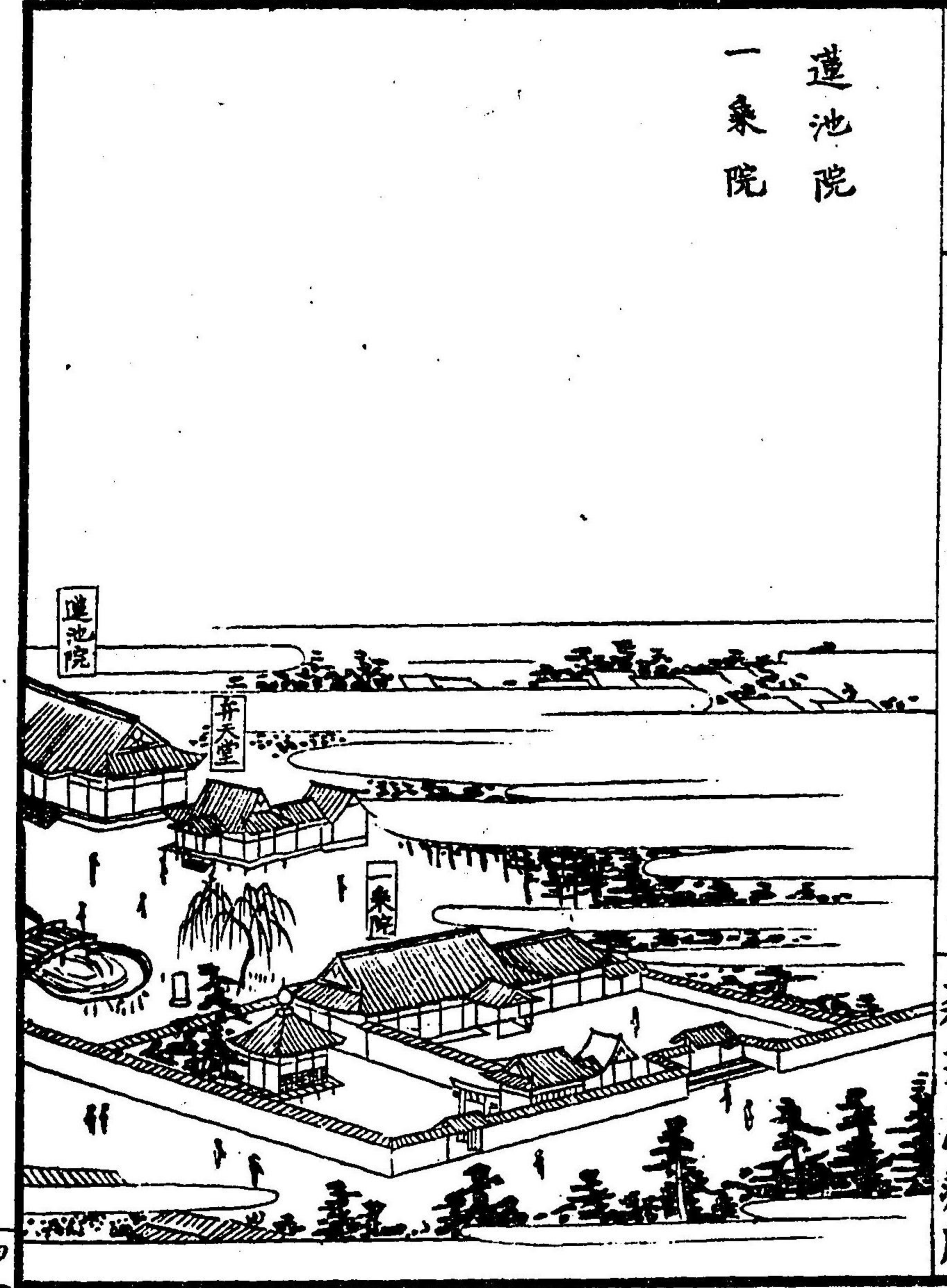
靈鳳山西光寺 同所より對山一向宗よりて明圓寺より屬す本

尊ハ阿弥陀如来よりて開山を釋祐玄といひ俗姓起美山



蓮池院

蓮池院
一象院



蓮池院

并天堂

四

蓮池院

内記とて安藝國吉田の産 洞春公御側より仕へり人ありと
そ初御弓町より地を賜ふ寛永の比當所より迂りて一字を野
創りたりとそ

醫王山一乘密院 長福寺と号は田畑小路あり新堀河岸此
角にあり古義の真言宗よりて満願寺より属す初藝州吉田
よりあり開山を真覺僧都とりの中興源政房宥英ハ慶長年間
天樹公より御供して當地より来り満願寺より住職す其後萬治四
年に地を平安古より賜ひて一寺を建立す号を長福寺とい
ふより後延宝年中住職宥算より号を一乘院と改め地

もきよ當所より迂す客殿本尊不動明王の像ハ智證大師の作
りて脇士の矜伽羅勢多伽らり

薬師堂 本堂の左よりあり本より薬師如来ハ惠心僧都の作り棟札云阿
武郡萩津平安古一乘院當住権大僧都宥算延宝三卯月日棟梁高

原久兵衛大工高原又兵衛
山縣忠兵衛とあり外畧之

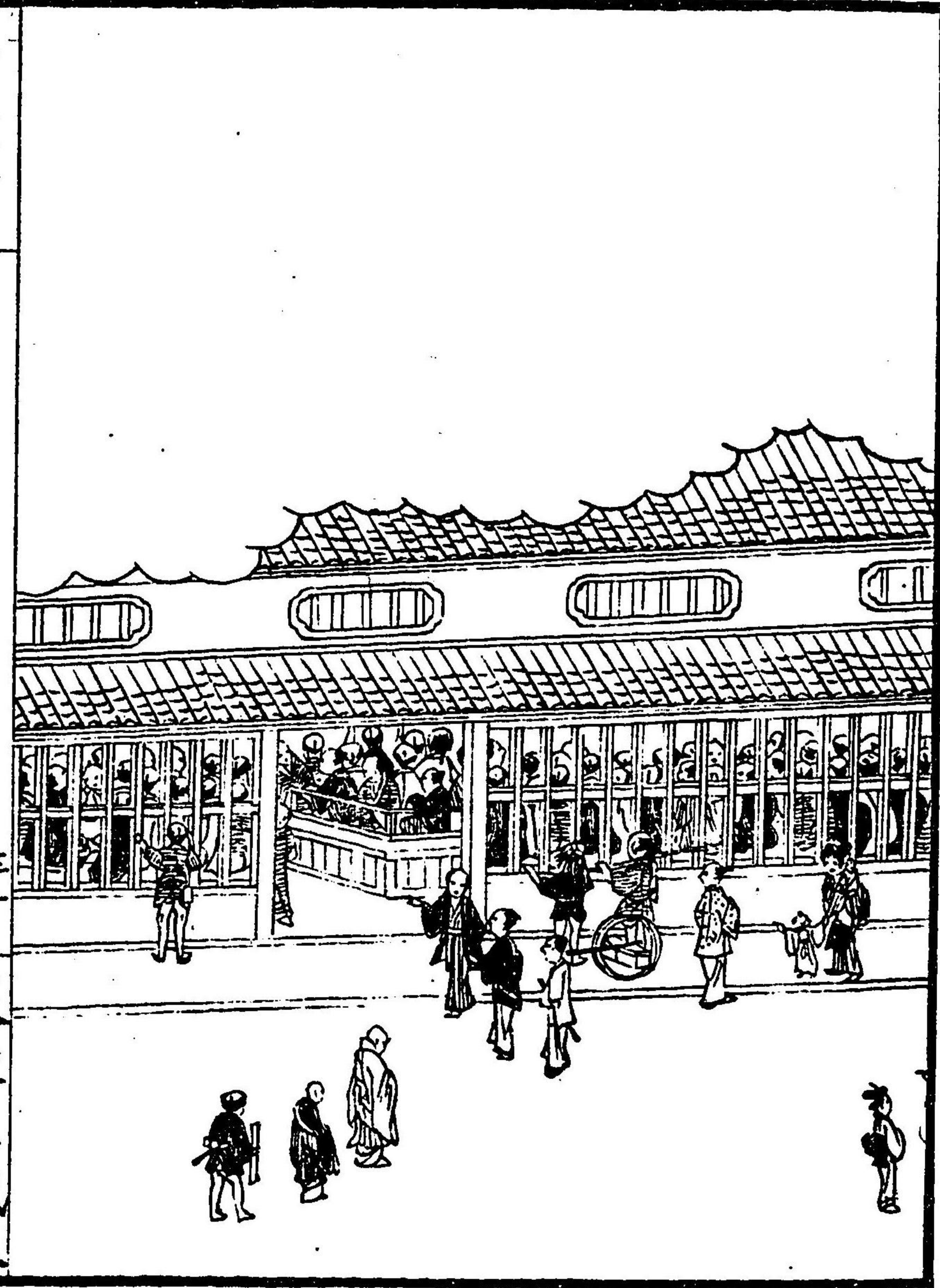
萬松山明圓寺 瓦町相模屋呉服店の左隣より一向宗よりて

藝州廣島明教寺より属す開山ハ祐甫字ハ教圓と号す本尊阿

弥陀如来ハ御長二尺六寸の坐像あり 此本より安藝の吉田よりありて
野舎より安置よりあり怪異あり

アとて里民恐怖し信するものありとて教圓を 寺記より曰其初め藝
州より得て守護し終り當所より持来れり

州より在て鎮西派の浄社より同國甲立邑高林坊住僧西



三十一
新堀

新堀
相場所
延宝八年新堀川
出来享保五年植松



新堀

四

願といふ所の 福田氏某の先祖よりとり 當寺より来り住職して宗風を改む

後慶長の中比當所より遷して建立せし所なり

寺宝 開山祐甫へ賜はる所の繪首 一軸

御客屋 瓦町の東詰あり他國より使者等の来りしときの客館なり

清光寺 西田町熊谷丁より左側あり一向宗にして京都本

願寺の末刹なり輝元公室清光院殿の御遺言より慶長

九年防州山口より創立せし開山ハ京師興正寺十九世准高上

入りて後十三年今の地より遷る

本尊阿彌陀如来毎年十一月報恩講の時より宗徒の老若日

夜冬詣ひきもたらしいと極く入り又門前の筋辨ハ延享二年

より其筋のゆりしを得て築きし所のなり一寺は名譽とりし

へ

光善寺 東田町あり真宗にして本願寺の末派なり本尊

阿彌陀如来創建の年月詳ならずしめ山口姫山あり

禪宗の一刹にして匡王寺と号し元和年間改宗教地に移り

寛永十年今の寺号より改むとりし

光明坊 上五間町あり一向宗にして本願寺の末派なり



三十一
町

御客屋



四

本尊阿弥陀如来ハ元小松寺ニありて平重盛卿の守本尊ト
ソハ傳ハ創建年月詳クナラズハハ安藝國高田郡下小原
村ニあり慶長五年本郡佐々並村一坂ニ移シ同九年今の
地を賜テ移轉セリト云

藤江落雁 一ノハ八重トキハ景の一ノテ佐世屋敷の裏手
をいへりト云

三千坊 吉田町ニあり一向宗ニテ本願寺の末寺ナリ
本尊阿弥陀如来大同元年平城天皇御願ニヨリ傳教大師
の弟子天壽坊ト云ハハ開基ナリ後天正六年真宗ニ改

め慶長三年八月今の地ニ移轉セリト云

瑞玄山報恩寺 津守町ニあり浄土宗智恩院末派ニテ常
念寺ニ属ス本尊阿弥陀如来創建年月詳クナラズハハ心
徳寺ト号シ元和三年今の寺号ニ改ムト云

端坊 惠美須町ニあり一向宗ニテ本願寺末派ナリ本尊
阿弥陀如来創始年月詳クナラズハハ開基明源俗姓大場全權
頭景明後深州院北面の武士ニテ高祖親鸞上人の直弟ト
ナリ城州山科ニ州巻を結ビテ建武の乱ニ焼失セリ
依テ渋谷興正寺を頼ミ一字を建ス興正寺境内六坊の

内其端ニ住すよりて端坊と号す後故ありて破却せられ
慶長八年本願寺に願ひ六條の寺内ニ端坊を建立す十三
世明善ニ至り御城下ニ一字を建立せんことを願ひ即て今
の地を賜へりといふ

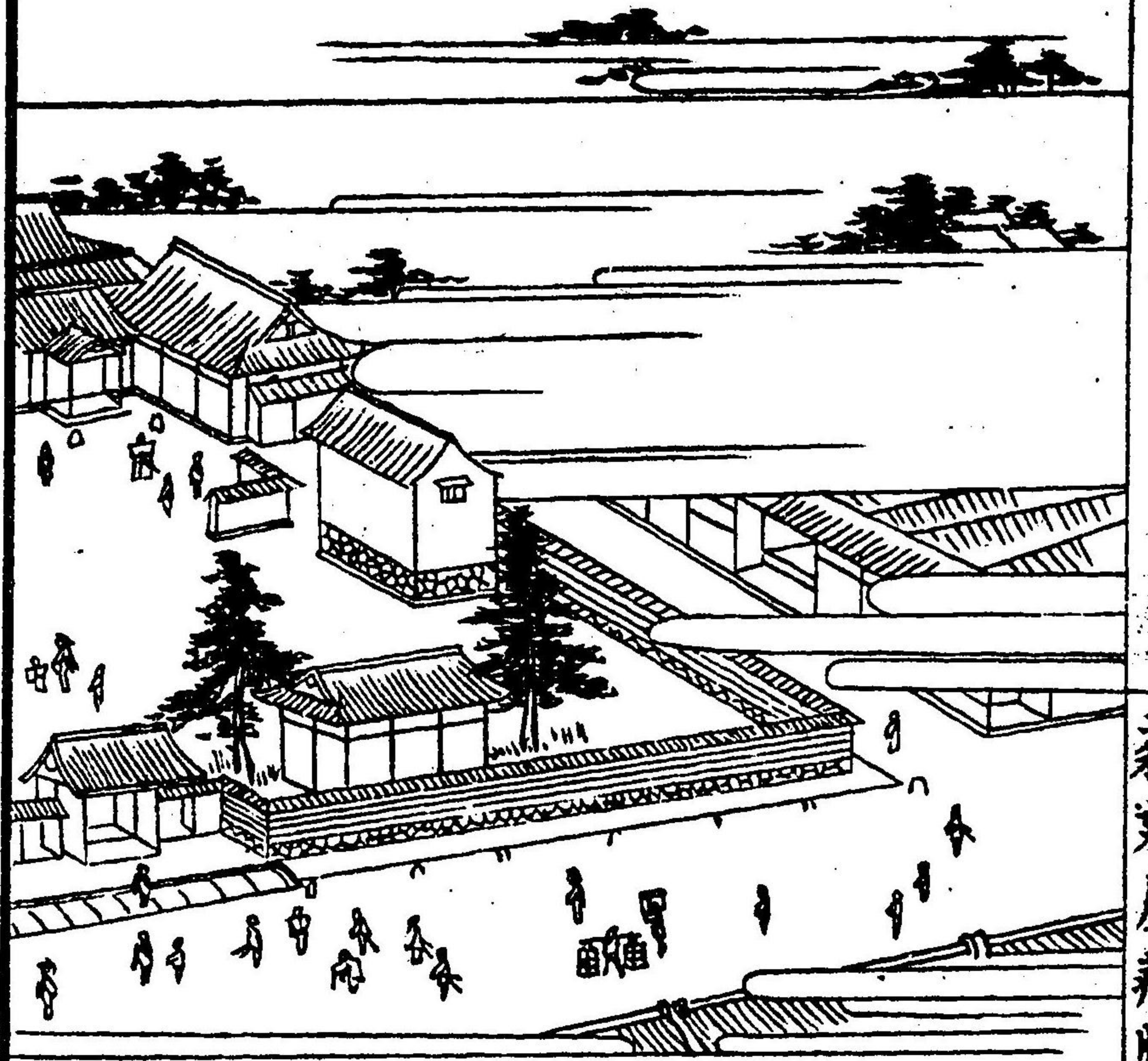
松原山法華寺 惠美湏町ニあり日蓮宗ありて防長二州法
華の第一座とす往昔ハ松原の中央にありてを以て山号と
す今といふ開基詳くなく慶長八九年の比ハ創始といふ
相傳ふもいめ下総國正中山法華經寺六世日典當國より
下り建立せしを以て其末派とす後京都本法寺を本

山とカセりといふ

花松峠 塩屋町より北ニ向ふ少く小高きありをいふ相傳
ふ御打入の節花松と呼て地神經三味絃座頭を兼ね勤め
一盲人御供せりあり者此宅此ありにありゆるかりと
いふいふ

峠天神社 塩屋町の北ニあり祭神菅原道真公勸請年月
詳くなく今といふ防州山口ニありて慶長年中今の地ニ
遷座せり例祭ハ九月廿三日廿四日の兩日して市中殊ニ賑
々たり又境内の井水ハ尤も清冽ありて遠近の人盛夏の

清光寺



清光寺

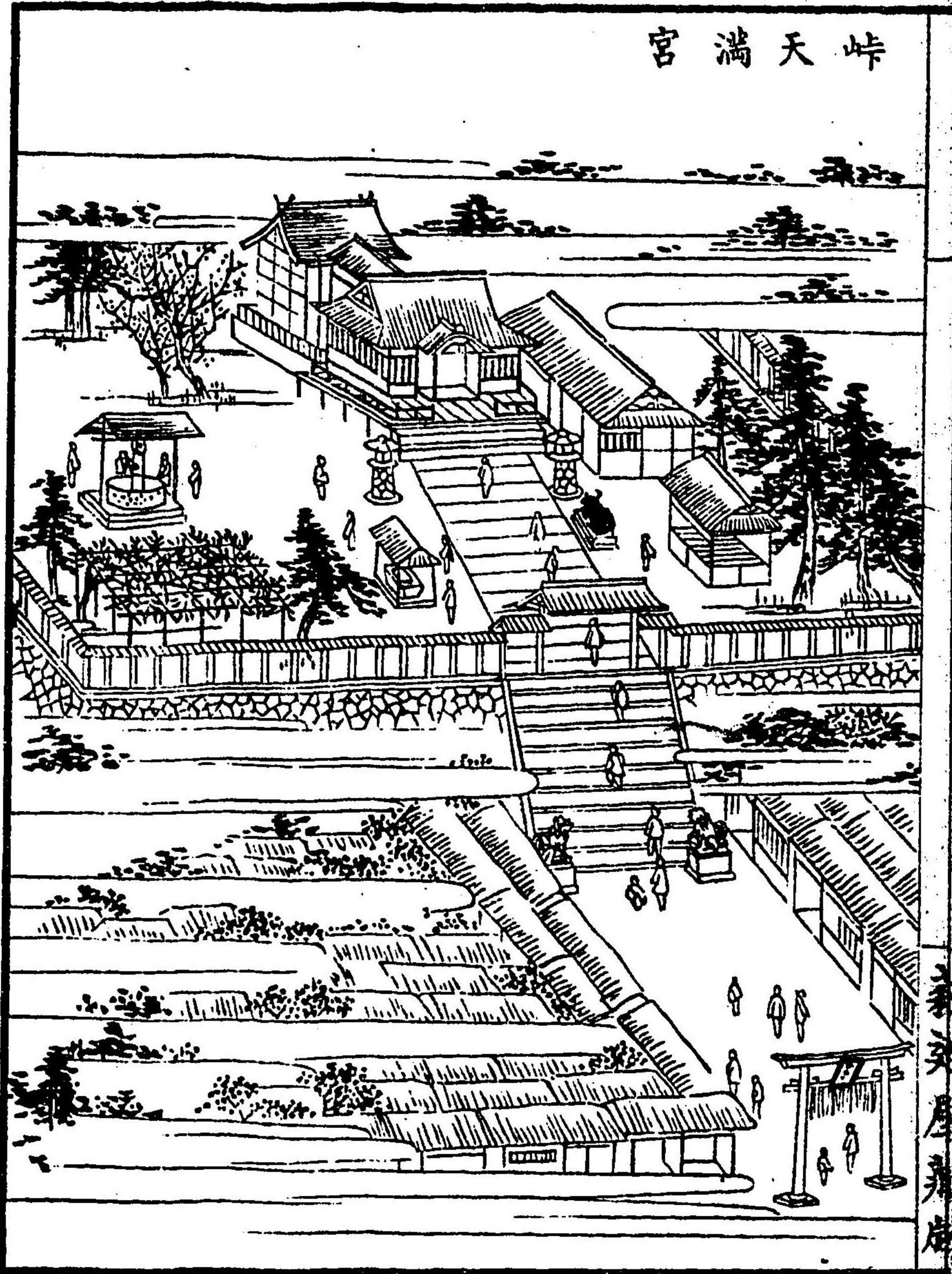
四



三十五

清光寺

峠天満宮



候よの来りて飲料に為すりの多し

涼松山長壽寺 北古萩町あり西山派の淨刹ありて京都
 禅林寺粟生光明寺の西末派より開山一空上人夜欣和尚
 せりめ山口長壽寺より住し輝元公御お入の節召出されま
 長十九年此地より一字を建立隱居處とせりめられし

67
172

八江款名所圖畫卷之四終

四

卷之四終

